

Dell™ PowerEdge™ 1750 システム ユーザーズガイド

[システムの概要](#)

[Dell OpenManage Server Assistant CD の使い方](#)

[セットアップユーティリティの使い方](#)

[仕様](#)

[コンソールリダイレクションの使い方](#)

[用語集](#)



メモ: 操作上、知っておくと便利な情報が記載されています。



注意: ハードウェアの破損またはデータの損失の可能性があることを示します。また、その問題を回避するための方法も示されています。



警告: 物的損害、けがまたは死亡の原因となる可能性があることを示します。

略語一覧

このマニュアルで使用されている略語の正式名については、「[用語集](#)」を参照してください。

このマニュアルの内容は予告なしに変更されることがあります。

© 2002 すべての著作権は Dell Computer Corporation にあります。

Dell Computer Corporation からの書面による許可なしには、いかなる方法においてもこのマニュアルの複写、転載を禁じます。

このマニュアルに使用されている商標: Dell, DELL のロゴ, PowerEdge, および Dell OpenManage は Dell Computer Corporation の商標です。Xeon および Intel386 は Intel Corporation の商標です。Intel および Pentium は Intel Corporation の登録商標です。Microsoft, Windows, Windows NT, および MS-DOS は Microsoft Corporation の登録商標です。Novell および NetWare は Novell, Inc. の登録商標です。

このマニュアルでは、上記記載以外の商標や会社名が使用されている場合があります。これらの商標や会社名は、一切 Dell Computer Corporation に所属するものではありません。

Model IMU

初版発行: 2002 年 12 月 6 日

[目次へ戻る](#)

仕様

Dell™ PowerEdge™ 1750 システム ユーザーズガイド

● 仕様

仕様

マイクロプロセッサ	
マイクロプロセッサのタイプ	最低内部動作周波数が 2.0 GHz 以上の Intel® Xeon™ マイクロプロセッサを 2 つまで
フロントサイドバス速度	133 MHz
アドレスバススピード	266 MHz (2 倍速アドレス転送速度)
データバススピード	533 MHz (4 倍速データ転送速度)
内部キャッシュ	512 KB レベル 2 キャッシュ
数値演算コプロセッサ	マイクロプロセッサに内蔵

拡張バス	
バスの種類	PCI, PCI-X
拡張スロット	3.3 V、64 ビット / 133 MHz の PCI-X スロット × 2 または 3.3 V、64 ビット / 133 MHz PCI-X スロット × 1、および 5 V、64 ビット / 33 MHz PCI スロット × 1

メモリ	
アーキテクチャ	72 ビット ECC PC-266 レジスタ DDR SDRAM DIMM、2 ウェイインターリーブ付き
メモリモジュールソケット	72 ビット幅、184 ピン DIMM ソケット × 4
メモリモジュール容量	128 MB、256 MB、512 MB、1 GB、または 2 GB のレジスタ DDR SDRAM DIMM (動作周波数 266 MHz)
最小RAM	256 MB
最大RAM	8 GB

ドライブ	
ハードドライブ	1 インチの内蔵 U320 SCSI を 3 台まで
ディスクドライブ	3.5 インチ、1.44 MB ディスクドライブ
CD または DVD ドライブ	IDE CD または DVD ドライブ

コネクタ	
外部アクセス用	
背面	
SCSI	68 ピン U320 SCSI コネクタ
シリアル	9 ピンコネクタ
USB	4 ピンコネクタ
NIC	内蔵 10 / 100 / 1000 NIC 用の RJ45 コネクタ × 2
RAC	オプションの RAC (100 Mbit Ethernet コントローラ) 用の RJ45 コネクタ × 1
ビデオ	15 ピンコネクタ
PS/2 型キーボード	6 ピンミニ DIN コネクタ
PS/2 互換マウス	6 ピンミニ DIN コネクタ
正面	
ビデオ	15 ピンコネクタ
USB	4 ピンコネクタ

ビデオ	
ビデオのタイプ	ATI Rage XL PCI ビデオコントローラ、VGA コネクタ
ビデオメモリ	8 MB

電源	
電源装置	
ワット数	320 W (AC)
電圧	100 ~ 240 VAC、50/60 Hz、3.9 ~ 2.0 A
熱散逸	電源装置 1 台につき最大 1026 BTU / 時
最大流入電流	通常のラインコンディションのもと、システムの操作可能範囲を越えて、入電量が電源装置 1 台につき 10 ミリ秒以下で 25 A に達することがあります。
システムバッテリー	3.0 V リチウムイオンコインセル

サイズと重量	
高さ	4.2 cm
幅	44.7 cm
奥行き	68.3 cm
重さ(最大)	15.9 kg

環境	
温度	
動作時	10°C ~ 35°C
保管時	-40°C ~ 65°C
相対湿度	
動作時	1 時間当たり 10 % の湿度変化で、8 % ~ 85 % (結露しないこと)
保管時	5 % ~ 95 % (結露しないこと)
最大振動	
動作時	z 軸の正方向に 15 分間に 3 ~ 200 Hz で 0.25 G
保管時	x、y、z 軸の正および負方向に 15 分間に 3 ~ 200 Hz で 0.5 G
最大衝撃	
動作時	z 軸の正方向に 1 衝撃パルス(システムの側面ごとに 1 パルス)、2 ミリ秒以下で 41 G
保管時(非動作時)	x、y、z 軸の正および負方向に 6 連続衝撃パルス(システムの側面ごとに 1 パルス)、2 ミリ秒以下で 71 G
高度	
動作時	-16 m ~ 3,048 m
保管時	-16 m ~ 10,600 m

[目次へ戻る](#)

[目次へ戻る](#)

コンソールリダイレクションの使い方

Dell™ PowerEdge™ 1750 システム ユーザーズガイド

- [ハードウェア要件](#)
- [ソフトウェア要件](#)
- [ホストシステムの設定](#)
- [クライアントシステムの設定](#)
- [ホストシステムのリモート管理](#)
- [特殊キーファンクションの設定](#)

コンソールリダイレクションを使用すると、シリアルポートを介してキーボード入力とテキスト出力をリダイレクトすることによって、クライアント(リモート)システムからホスト(ローカル)システムを管理することができます。グラフィック出力はリダイレクトできません。BIOS または RAID 設定などの作業に、コンソールリダイレクションを使用することができます。

共有モデムを使って多くのホストシステムにアクセスすることが可能なポート集線装置に、クライアントシステムを接続することもできます。ポート集線装置にログインすると、コンソールリダイレクションを使ってホストシステムを管理するように設定することができます。

この章では、最も基本的な接続について説明します。ヌルモデムシリアルケーブルを使ったシステムの接続です。2 つのシステム上のシリアルポートを直接接続します。

ハードウェア要件

- 1 ホストシステム上で利用可能なシリアル(COM)ポートを 1 つ
- 1 クライアントシステム上で利用可能なシリアル(COM)ポートを 1 つ

このポートは、クライアントシステム上の他のポートとコンフリクトしてはいけません。

- 1 ホストシステムをクライアントシステムに接続するヌルモデムシリアルケーブルを 1 本

ソフトウェア要件

- 1 ウィンドウサイズが 80 × 25 文字の VT100 / 220 または ANSI ターミナルエミュレーション
- 1 シリアル(COM)ポートを使用する 9600、19.2 K、57.6 K、または 115.2 Kbps
- 1 キーボードコマンドマクロを作成可能(推奨)

すべてのバージョンの Microsoft® Windows® オペレーティングシステムには、Hilgraeve の HyperTerminal ターミナルエミュレーションソフトウェアが付属しています。ただし、付属バージョンにはコンソールリダイレクション中に必要とされる多くの機能が含まれていません。HyperTerminal Private Edition 6.1 以降にアップグレードするか、新しいターミナルエミュレーションソフトウェアを選んでください。

ホストシステムの設定

セットアップユーティリティを使って、ホスト(ローカル)システム上のコンソールリダイレクションを設定します。「セットアップユーティリティの使い方」の「[Console Redirection 画面](#)」を参照してください。Console Redirection 画面を使って、コンソールリダイレクション機能を有効または無効にしたり、リモートターミナルの種類を選んだり、起動後にコンソールリダイレクションを有効または無効にすることができます。

クライアントシステムの設定

ホストシステムを設定した後、クライアント(リモート)システムのポートおよびターミナル設定をおこないます。

 **メモ:** この項の例は、Hilgraeve の HyperTerminal Private Edition 6.1 以降にアップグレードしたことを前提にしています。他のターミナルエミュレーションソフトウェアをお使いの場合、そのソフトウェアのマニュアルを参照してください。

シリアルポートの設定

1. **スタート** ボタンをクリックし、**プログラム** → **アクセサリ** → **通信** とポイントして、HyperTerminal をクリックします。
2. 新しい接続用の名前を入力し、アイコンを選んで、**OK** をクリックします。
3. **Connect to**(接続先) ドロップダウンメニューから使用可能な COM ポートを選び、**OK** をクリックします。

使用可能な COM ポートを選ぶと、COM ポートのプロパティウィンドウが表示されます。

4. ポートは次のように設定します。
 - 1 **Bits per second**(1 秒あたりのビット数) に設定します。

コンソールリダイレクションは、9600、19.2 K、57.6K、または 115.2 K bps にも対応しています。
 - 1 **Data bits**(データビット) を **8** に設定します。
 - 1 **Parity**(パリティ) を **None**(なし) に設定します。

- 1 Stop bits(ストップビット) を 1 に設定します。
 - 1 Flow control(フロー制御) を Hardware(ハードウェア) に設定します。
5. OK をクリックします。

ターミナルの設定

1. HyperTerminal で File(ファイル) をクリックし、Properties(プロパティ) をクリックして、Settings(設定) タブをクリックします。
2. Function, arrow, and Ctrl keys act as(ファンクションキー、矢印キー、Ctrl キーの動作) フィールドが、Terminal Keys(ターミナルキー) に設定されているか確認します。
3. Backspace key sends(バックスペースキーの送信) フィールドが、Ctrl+H に設定されているか確認します。
4. Emulation(エミュレーション) 設定を Auto detect(自動検出) から ANSI または VT 100 / 220 に変更します。

この設定が、ホストシステムの Console Redirection(コンソールリダイレクション) オプション用に選んだ設定と同じであることを確認します。

5. Terminal Setup(ターミナルセットアップ) をクリックします。
行数および列数を設定する画面が表示されます。
6. 行数を 24 から 25 へ変更します。列数は 80 のままにしておきます。
これらの設定がない場合、ターミナルエミュレーションソフトウェアをアップグレードする必要があります。
7. OK を 2 回クリックします。

ホストシステムのリモート管理

ホストシステムとクライアントシステムを設定すると、コンソールリダイレクションを使ってホストシステムを再起動したり、ホストシステムの設定を変更することができます。「[ホストシステムの設定](#)」および「[クライアントシステムの設定](#)」を参照してください。

1. クライアントシステムを使ってホストシステムを再起動します。
手順については、「[特殊キーファンクションの設定](#)」を参照してください。
2. システムが起動を開始したら、コンソールリダイレクションを使って以下の作業を実行することができます。
 - 1 セットアップユーティリティの起動
 - 1 SCSI セットアップメニューの起動
 - 1 ファームウェアと BIOS の更新(システムのフラッシュ)
 - 1 ユーティリティパーティションのユーティリティの実行

 **メモ:** ホストシステムのユーティリティパーティション上のユーティリティを実行するには、Dell OpenManage™ Server Assistant のバージョン 6.3.1 以降を使って ユーティリティパーティションを作成している必要があります。

特殊キーファンクションの設定

コンソールリダイレクションは ANSI または VT 100 / 220 ターミナルエミュレーションを使用します。これらは基本的な ASCII 文字に限られます。ファンクションキー、矢印キー、およびコントロールキーは、ASCII 文字のセットでは使用できません。そして、ほとんどのユーティリティの通常の操作では、ファンクションキー、およびコントロールキーを必要とします。ただし、エスケープシーケンスと呼ばれる特殊なキーシーケンスを使用する、ファンクションキーまたはコントロールキーをエミュレートすることができます。

エスケープシーケンスは、エスケープ文字で始まります。この文字は、お使いのターミナルエミュレーションソフトウェアの要件に応じて、様々な方法で入力できます。たとえば、0x1b、および <Esc> はどちらもエスケープ文字を示します。HyperTerminal では、View(表示) メニューから Key Macros(キーマクロ) を選んでマクロを作成できます。ほとんどすべてのキーの組み合わせに対するほとんどのキーに、マクロを割り当てることができます。各ファンクションキーを示すマクロを作成します。

[表 B-1](#) に、特殊キーまたはファンクションを示すエスケープシーケンスを一覧表示します。

 **メモ:** HyperTerminal でマクロを作成する際、ダイアログボックスを終了するのではなく、エスケープシーケンスを送信していることを知らせるために、<Esc> を押す前に <Insert> を押します。この機能がない場合、HyperTerminal をアップグレードする必要があります。

 **メモ:** [表 B-1](#) に、一覧表示したエスケープシーケンスキーの組み合わせは、大文字と小文字が区別されます。たとえば、<A> を生成するには、<Shift><a> を押す必要があります。

表 B-1. 対応エスケープシーケンス

キー	対応シーケンス	ターミナルエミュレーション
<上矢印>	<Esc><[><A>	VT 100 / 220, ANSI
<下矢印>	<Esc><[>	VT 100 / 220, ANSI
<右矢印>	<Esc><[><C>	VT 100 / 220, ANSI
<左矢印>	<Esc><[><D>	VT 100 / 220, ANSI
<F1>	<Esc><O><P>	VT 100 / 220, ANSI
<F2>	<Esc><O><Q>	VT 100 / 220, ANSI
<F3>	<Esc><O><R>	VT 100 / 220, ANSI
<F4>	<Esc><O><S>	VT 100 / 220, ANSI

<F5>	<Esc><O><T>	VT 100, ANSI
<F6>	<Esc><O><U>	VT 100, ANSI
	<Esc><[><1><7><~>	VT 100 / 220
<F7>	<Esc><O><V>	VT 100, ANSI
	<Esc><[><1><8><~>	VT 100 / 220
<F8>	<Esc><O><W>	VT 100, ANSI
	<Esc><[><1><9><~>	VT 100 / 220
<F9>	<Esc><O><X>	VT 100, ANSI
	<Esc><[><2><0><~>	VT 100 / 220
<F10>	<Esc><O><Y>	VT 100, ANSI
	<Esc><[><2><1><~>	VT 100 / 220
<F11>	<Esc><O><Z>	VT 100, ANSI
	<Esc><[><2><3><~>	VT 100 / 220
<F12>	<Esc><O><A>	VT 100, ANSI
	<Esc><[><2><4><~>	VT 100 / 220
<Home>	<Esc><[><1><~>	VT 220
	<Esc><h>	ANSI
<End>	<Esc><[><4><~>	VT 220
	<Esc><k>	ANSI
<Insert>	<Esc><[><2><~>	VT 220
	<Esc><Shift><+>	ANSI
<Delete>	<Esc><[><3><~>	VT 220
	<Esc><->	ANSI
<Page Up>	<Esc><[><5><~>	VT 220
	<Esc><Shift><?>	ANSI
<Page Down>	<Esc><[><6><~>	VT 220
	<Esc></>	ANSI
<Shift><Tab>	<Esc><[><Z>	VT 100
	<Esc><[><0><Z>	VT 220
	<Esc><[><Shift><z>	ANSI

表 B-1 に一覧表示したキーのマクロを作成した後、ターミナルエミュレーション中にクライアントシステムのキーボードの <F1> を押して、エスケープシーケンス <Esc><O><P> をホストシステムに送信します。この操作後、ホストシステムはシーケンスを <F1> として解釈します。

ホストシステムの特定のユーティリティまたは機能において、追加のエスケープシーケンスが必要な場合があります。表 B-2 に一覧表示されている、追加のシーケンス用のマクロを作成してください。

 **メモ:** 表 B-2 に、一覧表示したエスケープシーケンスキーの組み合わせは、大文字と小文字が区別されます。たとえば、<A> を生成するには、<Shift><a> を押す必要があります。

表 B-2. 追加のエスケープシーケンス

キー	対応シーケンス
<Ctrl><Alt> (システムの再起動)	<Esc><R><Esc><r><Esc><R>
<Alt><x>	<Esc><X><X>
<Ctrl><H>	<Esc><Ctrl><H>
<Ctrl><l>	<Esc><Ctrl><l>
<Ctrl><j>	<Esc><Ctrl><j>
<Ctrl><M>	<Esc><Ctrl><M>
<Ctrl><2>	<Esc><Ctrl><2>

[目次へ戻る](#)

[目次へ戻る](#)

システムの概要

Dell™ PowerEdge™ 1750 システム ユーザーズガイド

- [オプションのベゼルインジケータ](#)
- [正面パネルの機能およびインジケータ](#)
- [背面パネルの機能およびインジケータ](#)
- [システムの機能](#)
- [サポートされているオペレーティングシステム](#)
- [電源保護装置](#)
- [その他のマニュアル](#)
- [テクニカルサポートの受け方](#)

お使いのシステムは、1 つまたは 2 つの Intel® Xeon™ マイクロプロセッサを搭載した、薄型、フル機能、高可用性のラック設置型システムです。

この項では、お使いのシステムの主要なハードウェアとソフトウェアの機能、およびシステムの正面パネルと背面パネルにあるインジケータについて説明します。また、システムをセットアップする際に必要なその他のマニュアルの情報や、テクニカルサポートへの連絡方法についても説明します。

オプションのベゼルインジケータ

オプションのシステムベゼルには、青色と橙色に分かれたシステム状態インジケータが組み込まれています。図 1-1 を参照してください。青色のインジケータライトは、システムが正常に動作している場合に点灯します。橙色のインジケータは、電源装置、ファン、システムの温度、またはハードドライブに問題が発生して注意が必要な場合に点灯します。

表 1-1 に、システムインジケータのパターンを一覧表示します。システムでイベントが発生すると、さまざまなパターンで表示されます。

図 1-1. システム状態インジケータ

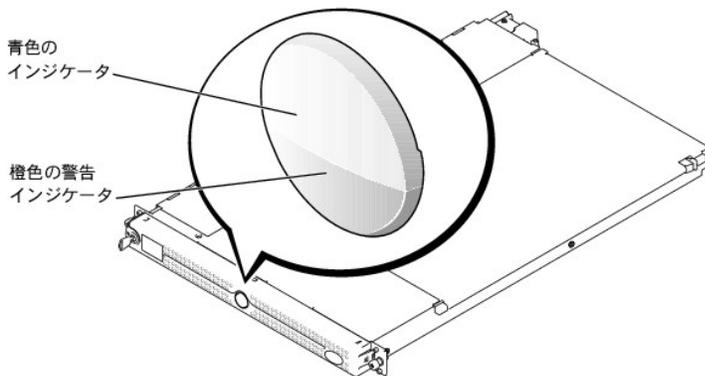


表 1-1. システム状態インジケータパターン

青色のインジケータ	橙色のインジケータ	説明
オフ	オフ	システムが利用できる電力がない、または電力は利用できるがシステムの電源が入っていません。詳細については、『インストール&トラブルシューティングガイド』を参照してください。
オフ	点滅	システムがエラーを検出しました。詳細については、『インストール&トラブルシューティングガイド』を参照してください。
オン	オフ	電源がオンで、システムは動作状態です。
点滅	オフ	インジケータは動作状態で、ラック内のシステムを識別しています。

メモ: システムが識別されている間は、エラーが検出された場合でも青色のインジケータは点滅します。システムが識別されると、青色のインジケータは点滅を停止し、橙色のインジケータが再び点滅し始めます。

正面パネルの機能およびインジケータ

図 1-2 に、システムの正面パネルのオプションのベゼルの背面にあるボタン、インジケータ、およびコネクタを示します。

図 1-2. 正面パネルの機能およびインジケータ

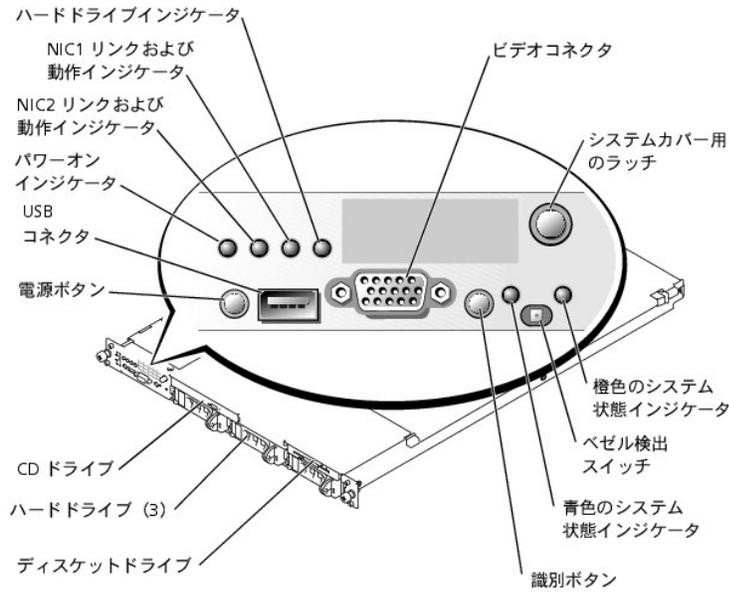


表 1-2. 正面パネルの LED インジケータ、ボタン、およびコネクタ

インジケータ、ボタン、およびコネクタ	アイコン	説明
青色のシステム状態インジケータ		青色のシステム状態インジケータは、通常のシステム動作中は点灯します。システム管理ソフトウェアとシステムの正面および背面にある識別ボタンの両方を使って、特定のシステムを識別するために青色のインジケータを点滅させることができます。
橙色のシステム状態インジケータ		橙色のシステム状態インジケータは、電源装置、ファン、システムの温度、またはハードドライブに問題が発生して注意が必要な場合に点滅します。 メモ: システムが AC 電源に接続されている状態でエラーが検出されると、橙色のシステム状態インジケータはシステムの電源がオンになっていても点滅します。
NIC1 / NIC2 リンクおよび動作インジケータ		2 つの内蔵 NIC 用のリンクおよび動作インジケータは、NIC の使用中に断続的に点灯します。
ハードドライブインジケータ		緑色のハードドライブ動作インジケータは、ハードドライブを使用している場合に点滅します。ハードドライブインジケータの詳細については、 図 1-3 を参照してください。
電源オンインジケータ、電源ボタン		電源オンインジケータは、システムに電源が入っている場合に点灯します。 電源ボタンはシステムへの DC 電源装置の出力を制御します。 メモ: ACPI 対応のオペレーティングシステムを実行している場合、電源ボタンを使ってシステムの電源を切る場合に、システムは電源が切れる前に適切なシャットダウンを実行することができます。システムが ACPI 対応のオペレーティングシステムを実行していない場合、電源ボタンを押すと電源はただちに切れます。
識別ボタン		正面パネルと背面パネルの識別ボタンは、ラック内の特定のシステムの位置を確認するために使用されます。ボタンの 1 つが押されると、正面と背面の青色のシステム状態インジケータはボタンのうちの 1 つが再度押されるまで点滅します。
USB コネクタ		USB 1.1 対応のデバイスをシステムに接続します。
ビデオコネクタ		モニタをシステムに接続します。

SCSI ハードドライブインジケータコード

オプションの ROMB (システム基板上の RAID)カードが動作している場合、各ハードドライブキャリアの 2 つのインジケータは、SCSI ハードドライブの状態を示します。図 1-3 および表 1-3 を参照してください。SCSI バックプレーンファームウェアは、ドライブの電源オン / 障害インジケータを制御します。

図 1-3. SCSI ハードドライブインジケータ

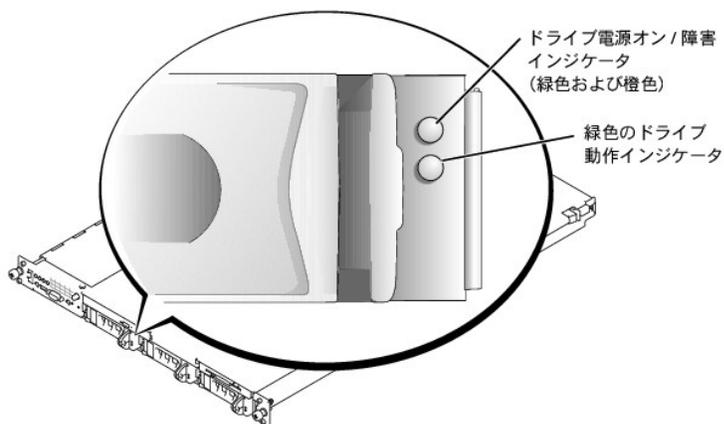


表 1-3 に、ドライブインジケータのパターンを一覧表示します。システムでドライブイベントが発生すると、さまざまなパターンで表示されます。たとえば、ハードドライブが故障すると、「ドライブに障害発生」のパターンが表示されます。取り外しのためにドライブを選択した後、「ドライブ取り外し準備中」のパターンが表示され、その後、「ドライブの挿入または取り外し可」のパターンが表示されます。交換用のドライブが取り付けられた後、「ドライブの動作準備中」を示すパターンが表示され、次に「ドライブオンライン状態」を示すパターンが表示されます。

メモ: オプションの ROMB カードが取り付けられていない場合、「ドライブオンライン状態」のインジケータパターンのみが表示されます。ドライブ動作インジケータは、ドライブへのアクセスがある場合にも点滅します。

表 1-3. ハードドライブインジケータパターン

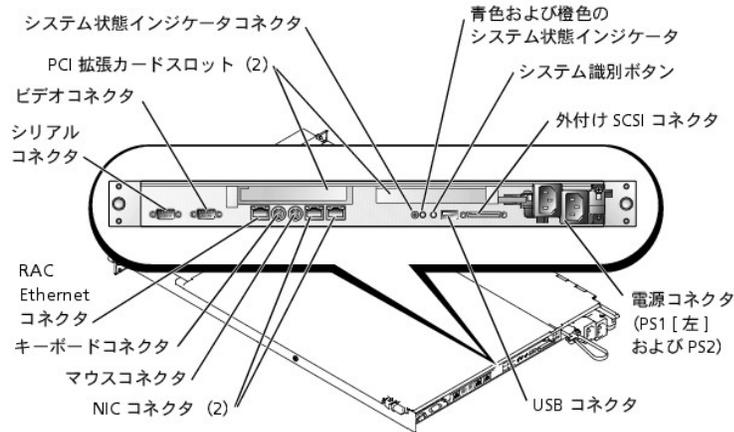
状態	インジケータパターン
ドライブの識別	緑色の電源オン / 障害インジケータが 1 秒間に 4 回点滅します。
ドライブ取り外し準備中	緑色の電源オン / 障害インジケータが 1 秒間に 2 回点滅します。
ドライブの挿入または取り外し可	両方のドライブインジケータがオフです。
ドライブの動作準備中	緑色の電源オン / 障害インジケータが点灯します。
ドライブ障害の予測	電源オン / 障害インジケータがゆっくり緑色、橙色の順に点滅してから消えます。
ドライブに障害発生	橙色の電源オン / 障害インジケータが 1 秒間に 4 回点滅します。
ドライブ再構築中	緑色の電源オン / 障害インジケータがゆっくり点滅します。
ドライブオンライン状態	緑色の電源オン / 障害インジケータが点灯します。

背面パネルの機能およびインジケータ

図 1-4 には、システム背面パネルにあるボタン、インジケータ、およびコネクタを示します。

メモ: お使いのシステムに電源装置が 1 つしか搭載されていない場合、電源ケーブルを PS1 コネクタに接続します。図 1-4 を参照してください。

図 1-4. 背面パネルの機能およびインジケータ



外付けデバイスの接続

システムに外付けデバイスを接続する場合、次のガイドラインに従ってください。

- ほとんどのデバイスは特定のコネクタに接続する必要があります。また、デバイスドライバをインストールしないとデバイスは正常に動作しません。(デバイスドライバは、通常オペレーティングシステムのソフトウェアまたはデバイス本体に付属しています。) デバイスに固有の取り付け手順および設定手順については、デバイスに付属のマニュアルを参照してください。
- 外付けデバイスは、必ずシステムの電源がオフのときにのみ取り付けます。次に、システムの電源を入れる前に外付けデバイスの電源を入れます (デバイスのマニュアルに特別の指示がない限り)。

個々のコネクタの情報については、『インストール & トラブルシューティングガイド』を参照してください。I/O ポートやコネクタを有効または無効にする方法、および設定方法については、「[セットアップユーティリティの使い方](#)」を参照してください。

システムの機能

- 内部動作速度が最低 2.0 GHz、512 KB のレベル 2 キャッシュ、フロントサイドバス動作が 533 MHz の Intel Xeon マイクロプロセッサを 1 つまたは 2 つ
- 2 つの Intel Xeon マイクロプロセッサが搭載されているシステムの場合、SMP (対称型マルチプロセッシング) をサポート。SMP は、独立した複数のマイクロプロセッサ間で処理を分けることにより、システム全体の性能を飛躍的に向上させます。この機能を活用するには、マルチプロセッシング対応のオペレーティングシステムを使用する必要があります。

メモ: 2 つ目のマイクロプロセッサを取り付けシステムをアップグレードする場合、デルのマイクロプロセッサアップグレードキットを購入する必要があります。Intel Xeon マイクロプロセッサの中には、増設用として正しく機能しないバージョンのものもあります。デルのアップグレードキットには、正しいバージョンのマイクロプロセッサ、およびアップグレードを実行するための手順書が入っています。両方のマイクロプロセッサは、内部動作周波数およびキャッシュ容量が同じでなくてはなりません。

- 最小容量 256 MB の PC-266 レジスタ DDR SDRAM メモリモジュール。システム基板上の 4 つのメモリモジュールソケットに 128 MB、256 MB、512 MB、1 GB、または 2 GB の 2 ウェインタリブ付きメモリモジュールを取り付けることによって、8 GB まで増設可能
- 1 インチの内蔵 U320 SCSI ハードドライブ (オプションの ROMB カードを使用した場合はホットプラグ対応) を 3 台まで
- 1.44 MB、3.5 インチディスクドライブが 1 台
- IDE CD または DVD ドライブが 1 台
- 1 + 1 冗長構成において、ホットプラグ対応の 320 W 電源装置を 2 つまで
- ホットプラグ対応システム冷却ファンが 7 基

システム基板には、次の機能が搭載されています。

- 以下の PCI 拡張カードスロットオプションのうちの 1 つ。拡張カードスロットはフルハイトとハーフレンガの拡張カードをサポートします。
 - 3.3 V、64 ビット / 133 MHz PCI-X 拡張スロットを持つ、接続されたライザカードが 2 枚
 または
 - 3.3 V、64 ビット / 133 MHz PCI-X 拡張スロットを 1 つ、および 5 V、64 ビット / 33 MHz PCI 拡張スロットを 1 つ持つ、接続されたライザカードが 2 枚
- ATI RAGE XL ビデオコントローラ搭載の内蔵 VGA 互換ビデオサブシステム。このビデオサブシステムには、8 MB の SDRAM ビデオメモリが組み込まれています (アップグレード不可)。最大解像度は 256 色で、1,024 × 768、640 × 480、800 × 600、および 1,024 × 768 の解像度で true-color 用に 1,670 万色が利用可能です。
- 内蔵デュアルチャネル U320 SCSI ホストアダプタ。内部チャネルは、SCSI バックプレーン上の SCSI ハードドライブを 3 台までサポートします。SCSI バックプレーンは、SCSI ID 番号および SCSI ターミナーを自動的に設定するので、ドライブの取り付けが飛躍的に単純化されます。セカンド SCSI チャネル (外付け SCSI チャネル) は、システムの背面で利用できます。
- 128 MB のキャッシュメモリと RAID バッテリーを組み込んだ個別の RAID コントローラを介するオプションの ROMB
- 10 Mbps、100 Mbps、および 1000 Mbps のデータ転送速度をサポートする内蔵 Gigabit Ethernet NIC が 2 つ
- リモートシステム管理用のオプションの RAC (リモートアクセスコントローラ)
- システムファンの動作だけでなく、重要なシステム電圧と温度も監視するシステム管理回路。システム管理回路は、システム管理ソフトウェアと連動します。
- 背面パネルコネクタには、マウスコネクタ、キーボードコネクタ、シリアルコネクタ、ビデオコネクタ、USB コネクタ、外付け SCSI コネクタ、RAC Ethernet コネクタ、および 2 つの NIC コネクタがあります。
- 正面パネルのコネクタには、ビデオコネクタおよび USB コネクタがあります。

それぞれの機能の詳細については、「[仕様](#)」を参照してください。

お使いのシステムには、次のソフトウェアが付属しています。

- 1 システム設定情報をすばやく表示したり変更できる、セットアップユーティリティ。このプログラムの詳細については、「[セットアップユーティリティの使い方](#)」を参照してください。
- 1 セットアップユーティリティから利用可能なシステムパスワードおよびセットアップパスワードを含む、強化されたセキュリティ機能
- 1 システムのコンポーネントおよびデバイスを診断するためのシステム診断プログラム。システム診断プログラムの使用方法については、『インストール&トラブルシューティングガイド』の「システム診断プログラムの実行」を参照してください。
- 1 多くの一般的なアプリケーションプログラムを高解像度モードで表示するビデオドライバ
- 1 オペレーティングシステムと内蔵 SCSI サブシステムに接続されたデバイスとの通信を可能にする SCSI デバイスドライバ。これらのドライバについての詳細は、『インストール&トラブルシューティングガイド』の「ハードドライブの取り付けと構成」を参照してください。
- 1 システム管理ソフトウェアおよびマニュアル CD

サポートされているオペレーティングシステム

- 1 Microsoft Windows 2000 Server および Advanced Server
- 1 Microsoft Windows.NET Server 2003 Standard Edition, Enterprise Edition、および Web Edition (利用可能な場合)
- 1 Red Hat Linux 8.0 および Red Hat Linux Advanced Server 2.1
- 1 Novell® NetWare® 6.0

電源保護装置

電圧変動、停電などの影響からシステムを保護するためのデバイスがあります。

- 1 PDU — AC 電流量が PDU の値を超えないようにするために回路ブレーカーを使用します。
- 1 サージプロテクタ — 雷雨中などに発生する可能性のある電圧スパイクが、コンセントを介してシステムに侵入するのを防ぎます。サージプロテクタは、電圧が通常の AC ライン電圧レベルより 20 % 以上低下した時に起こる電圧低下からは保護できません。
- 1 ラインコンディショナ — システムの AC 電源電圧をほぼ一定に保ち、短時間の電圧低下から保護しますが、完全な停電からは保護できません。
- 1 UPS — AC 電源が使用できない場合に、バッテリーから電力を供給してシステムを動作し続けます。バッテリーは AC 電源が利用可能な間に充電されます。AC 電力が供給されなくなると、5 分から約 1 時間の限られた時間、バッテリーからシステムに電力が供給されます。バッテリーで 5 分間しか電力を供給できない UPS では、システムのシャットダウンしかおこなえません。UPS はすべてサージプロテクタおよび PDU と一緒に使用してください。UPS は UL の安全基準に合格していることを確認してください。

その他のマニュアル

 『システム情報ガイド』では、安全および認可機関に関する情報について説明しています。保証に関する情報は、『サービス&サポートのご案内』を参照してください。

- 1 ラックソリューションに付属の『ラックインストールガイド』では、システムのラックへの取り付け方法について説明しています。
- 1 『システムのセットアップ』マニュアルでは、システムを最初にセットアップするための概要について説明しています。
- 1 『インストール&トラブルシューティングガイド』では、システムのトラブルシューティング方法、およびシステムコンポーネントの取り付けや交換方法について説明しています。
- 1 『Dell Remote Access Controller Installation and Setup Guide』では、RAC の取り付け、設定、および RAC を使用してシステムにリモートでアクセスする方法について説明しています。
- 1 システム管理ソフトウェアのマニュアルでは、ソフトウェアの機能、必要条件、インストール、および基本操作について説明しています。
- 1 オペレーティングシステムのマニュアルでは、オペレーティングシステムソフトウェアのインストール方法 (必要な場合)、設定方法、および使い方について説明しています。
- 1 システムとは別に購入したコンポーネントのマニュアルでは、これらのオプションの設定および取り付け方法について説明しています。
- 1 システム、ソフトウェア、マニュアルの変更について説明したアップデートがシステムに同梱されていることがあります。

 **メモ:** マニュアルの情報を変更した内容が含まれているので、必ずアップデートを最初にお読みください。

- 1 リリースノートまたは readme ファイルには、マニュアルの印刷後にシステムに追加された変更や、技術者および専門知識をお持ちのユーザーを対象とする、テクニカルファレンスが記載されている場合があります。

テクニカルサポートの受け方

このガイドの手順が理解できない場合、またはシステムが思った通りに動作しない場合、『インストール&トラブルシューティングガイド』を参照してください。

Dell Enterprise Training and Certification がご利用いただけます。詳細については、www.dell.com/training を参照してください。地域によっては、このサービスを利用できない場合があります。

[目次へ戻る](#)

[目次へ戻る](#)

Dell OpenManage Server Assistant CD の使い方

Dell™ PowerEdge™ 1750 システム ユーザーズガイド

- [Server Assistant CD の起動](#)
- [サーバセットアッププログラムの使い方](#)
- [ドライバとユーティリティのアップデート](#)
- [ユーティリティパーティションの使い方](#)

『Dell OpenManage Server Assistant CD』には、お使いのシステムを設定するために役立つユーティリティ、診断プログラム、ドライバが収録されています。オペレーティングシステムがプリインストールされていない場合、この CD を使ってオペレーティングシステムのインストールを開始します。システムのハードドライブ上の起動ユーティリティパーティションには、『Server Assistant CD』と同じ機能がいくつか含まれています。

Server Assistant CD の起動

システムを設定してオペレーティングシステムをインストールするには、『Server Assistant CD』を挿入して、システムの電源を入れるか再起動します。Dell OpenManage Server Assistant メイン画面が表示されます。

『Server Assistant CD』では、標準のウェブブラウザインタフェースを使用します。各種アイコンやテキストのリンクをマウスでクリックして、CD を操作することができます。

Server Assistant を終了するには、Exit(終了) アイコンをクリックします。サーバセットアッププログラム中に Server Assistant を終了すると、システムは標準のオペレーティングシステム起動パーティションに再起動します。

CD が起動しない場合、セットアップユーティリティの Boot Sequence オプションで、CD ドライブが最初に起動するよう指定されているか確認します。「[セットアップユーティリティの使い方](#)」を参照してください。

サーバセットアッププログラムの使い方

オペレーティングシステムがプリインストールされていない場合、または後日オペレーティングシステムをインストールする場合、『Server Assistant CD』のサーバセットアッププログラムを使って、システムを設定したりオペレーティングシステムをインストールします。

 **メモ:** オペレーティングシステムがプリインストールされていない場合にのみ、『Server Assistant CD』を使用してください。オペレーティングシステムの『インストール手順』マニュアルを探し、手順に従ってインストールを実行します。

サーバセットアッププログラムを使って次のようなタスクが実行できます。

- 1 システムの日付と時間の設定
- 1 RAID コントローラの設定 (適用できる場合)
- 1 オペレーティングシステムの選択およびインストール、オペレーティングシステムに固有の情報の特定
- 1 ハードドライブの構成
- 1 インストール要約の表示

 **メモ:** オペレーティングシステムをインストールするには、オペレーティングシステムのメディアが必要です。

サーバセットアッププログラムを起動するには、Dell OpenManage Server Assistant メイン画面で、Server Setup(サーバのセットアップ) をクリックします。画面の指示に従います。

ドライバとユーティリティのアップデート

Microsoft® Internet Explorer 4.0 以降、または Netscape Navigator 6.0 以降がインストールされているシステムでは、ドライバとユーティリティをアップデートすることができます。Microsoft Windows® オペレーティングシステムを使用しているシステムの CD ドライブに CD を挿入すると、ブラウザが自動的に起動し、Dell OpenManage Server Assistant メイン画面が表示されます。

ドライバとユーティリティをアップデートするには、次の手順を実行します。

1. Dell OpenManage Server Assistant メイン画面から、ドライバとユーティリティのアップデート用のオプションを選びます。
2. ドロップダウンボックスからシステムのモデル番号を選びます。
3. アップデートするドライバまたはユーティリティのタイプを選びます。
4. Continue(続行) をクリックします。
5. アップデートする各ドライバまたはユーティリティを選びます。

プログラムを実行するか、ファイルを保存する場所を用意するよう指示されます。

6. プログラムを実行するか、ファイルを保存する場所を指定します。

ユーティリティパーティションの使い方

ユーティリティパーティションはハードドライブ上の起動パーティションであり、システム設定や診断ユーティリティを含んでいます。ユーティリティパーティションを起動すると、パーティションのユーティリティ用の実行環境が提供されます。

ユーティリティパーティションを起動するには、システムの電源を入れるか再起動します。POST 中に、次のメッセージが表示されたら、<F10> を押します。

<F10> = Utility Mode

 **メモ:** ユーティリティパーティションで用意されている MS-DOS® 機能は限られており、汎用の MS-DOS パーティションとして使用することはできません。

ユーティリティパーティションでは、テキストベースのインタフェースによってパーティションのユーティリティを実行します。メニューオプションを選択するには、矢印キーを使ってオプションをハイライト表示して <Enter> を押すか、またはメニューオプション番号を入力します。ユーティリティパーティションを終了するには、Utility Partition メインメニューから <Esc> を押します。

[表 2-1](#) に、ユーティリティパーティションメニュー上に表示されるオプションのサンプル一覧とその説明を示します。これらのオプションは、『Server Assistant CD』が CD ドライブにない場合でも使用できます。

表 2-1. ユーティリティパーティションのメインメニューオプション

オプション	説明
Run system diagnostics	システムハードウェアの診断プログラムを実行します。
Run RAID configuration utility	ROMB または RAID コントローラードが取り付けられている場合、RAID 設定ユーティリティを実行します。
メモ: 表示されるオプションはシステム設定によって変わります。また、この一覧に表示されない場合もあります。	

[目次へ戻る](#)

[目次へ戻る](#)

セットアップユーティリティの使い方

Dell™ PowerEdge™ 1750 システム ユーザーズガイド

- [セットアップユーティリティの起動](#)
- [セットアップオプション](#)
- [システムパスワードとセットアップパスワードの機能](#)
- [パスワードを忘れたとき](#)
- [管理タグ設定ユーティリティ](#)

システムのセットアップが終了したら、システム設定およびオプション設定を理解するために、セットアップユーティリティを起動します。参照用に <Print Screen> を押してセットアップユーティリティ画面を印刷するか、その情報を記録します。

セットアップユーティリティは、次のような場合に使用できます。

- 1 ハードウェアを追加、変更、または削除した後、NVRAM に保存されたシステム設定を変更する場合
- 1 時間や日付などのユーザーが選択可能なオプションを設定または変更する場合
- 1 内蔵デバイスを有効または無効にする場合
- 1 取り付けられたハードウェアと設定の間の不一致を修正する場合

セットアップユーティリティの起動

- 1 システムの電源を入れるか、再起動します。
- 2 次のメッセージが表示されたら、素早く <F2> を押します。

<F2> = System Setup

<F2> を押す前にオペレーティングシステムがロードし始めた場合、システムの起動が完了するのを待って、再度実行します。

 **メモ:** 正しいシステムのシャットダウン方法については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

エラーメッセージへの対応

特定のエラーメッセージに対応することによって、セットアップユーティリティを起動することができます。システムの起動中にエラーメッセージが表示された場合、メッセージをメモしてください。セットアップユーティリティを起動する前に、『インストール&トラブルシューティングガイド』の「システムビープコード」および「システムメッセージ」を参照して、メッセージの意味やエラー修正の方法を調べてください。

 **メモ:** メモリのアップグレードを取り付けた後、最初にシステムを起動する際に、通常システムはメッセージを送信します。

セットアップユーティリティの使い方

[表 3-1](#) に、セットアップユーティリティ画面で情報を表示または変更したり、プログラムを終了するときを使うキーを一覧表示します。

表 3-1. セットアップユーティリティナビゲーションキー

キー	処置
上矢印または <Shift><Tab>	前のフィールドへ移動します。
下矢印または <Tab>	次のフィールドへ移動します。
スペースキー、<+>、<->、および左右矢印	フィールドの設定を順に切り替えます。多くのフィールドでは適切な値を直接入力することもできます。
<Esc>	変更をおこなった場合、セットアップユーティリティを終了してシステムを再起動します。
<F1>	セットアップユーティリティのヘルプファイルを表示します。

 **メモ:** ほとんどのオプションでは、変更内容が自動的に記録されますが、システムを再起動するまでは有効になりません。

セットアップオプション

メイン画面

セットアップユーティリティを起動すると、セットアップユーティリティのメイン画面が表示されます。[図 3-1](#) を参照してください。

図 3-1. セットアップユーティリティのメイン画面

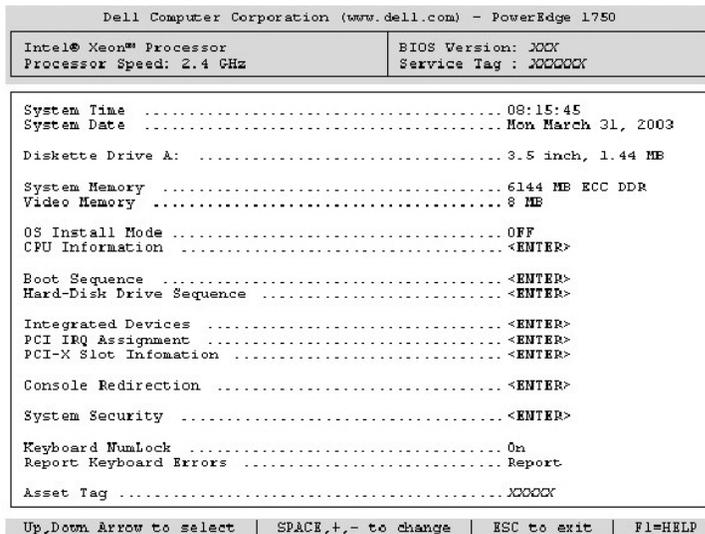


表 3-2 に、セットアップユーティリティのメイン画面に表示される情報フィールドのオプションおよび説明を一覧表示します。

メモ: セットアップユーティリティのデフォルト設定は、該当する場合、それぞれのオプションの下に表示されています。

表 3-2. セットアップユーティリティオプション

オプション	説明
System Time	システムの内部時計の時刻をリセットします。
System Date	システムの内蔵カレンダーの日付をリセットします。
Diskette Drive A:	お使いのシステムのディスクドライブの種類を選択することができる画面を表示します。
System Memory	システムメモリの容量を表示します。このオプションには、ユーザーが選択できる設定はありません。
Video Memory	ビデオメモリの容量を表示します。このオプションには、ユーザーが選択できる設定はありません。
Redundant Memory	冗長メモリ機能を有効または無効にします。有効にした場合、一番最後のバンクを除くすべてのメモリバンクがオペレーティングシステムに報告されます。最後のバンクはフェールオーバー用に確保されています。無効にした場合、すべての利用可能なシステムメモリがオペレーティングシステムに報告されます。 メモ: この機能は、すべてのメモリバンクに同じタイプのメモリモジュールが装着されている場合にのみ有効にすることができます。
OS Install Mode (デフォルトは Off)	オペレーティングシステムが利用可能なメモリの最大容量を指定します。On に設定すると、メモリの最大容量は 256 MB に設定されます。Off に設定すると、すべてのシステムメモリがオペレーティングシステムが利用できるようになります。オペレーティングシステムの中には、2 GB 以上のシステムメモリではインストールできないものもあります。オペレーティングシステムのインストール中はこのオプションを有効にし (On)、インストールが終了したら無効にします (Off)。
CPU Information (デフォルトは Logical Processor Enabled)	マイクロプロセッサに関する情報を表示します (速度、キャッシュサイズなど)。Logical Processor オプションの設定を変更して、ハイバースレディングテクノロジーを有効または無効にします。
Virtual Media (デフォルトは Disabled)	仮想メディア機能を有効または無効にします (利用可能な場合)。オプションは、Enabled および Disabled です。デフォルトは、オプションが利用可能になるまで Disabled です。
Boot Sequence	システム起動時にシステムが起動デバイスを検索する順番を決定します。利用可能なオプションは、ディスクドライブ、CD ドライブ、ハードドライブ、およびネットワークです。
Hard-Disk Drive Sequence	システム起動時にシステムがハードドライブを検索する順番を指定します。お使いのシステムに取り付けられているハードドライブによって、選択肢が異なります。
Integrated Devices	「Integrated Devices 画面」 を参照してください。
PCI IRQ Assignment	PCI バスの内蔵デバイスのそれぞれに割り当てられている IRQ、および IRQ を必要とするすべての搭載済み拡張カードを変更できる画面を表示します。
PCI Slot Information	選択可能なフィールドのメニューを表示します。これらのフィールドのいずれかを選ぶと、選択した PCI バスの以下の情報が表示されます。 1 使用中または未使用 1 PCI スロットが使用中の場合、スロット (PCI または PCI-X) の動作周波数およびモード 1 スロットが未使用の場合、スロットの最大動作周波数、および動作可能なモード
Console Redirection	「Console Redirection 画面」 を参照してください。
System Security	システムパスワードおよびセットアップパスワードの機能を設定する画面を表示します。詳細については、 「システムパスワードの使い方」 および 「セットアップパスワードの使い方」 を参照してください。
Keyboard NumLock	101 または 102 キーのキーボードで (84 キーのキーボードには適用されません)、NumLock モードが有効な状態でシステムが起動するかどうかを決定します。
Report Keyboard Errors	POST 中のキーボードエラーの報告を有効または無効にします。キーボードが取り付けられたホストシステムではこのオプションを有効にします。Do Not Report を選ぶと、POST 中に検出されたキーボードまたはキーボードコントローラに関連するすべてのエラーメッセージが省略されます。キーボードがシステムに取り付けられている場合、この設定はキーボード自体の操作に対する影響はありません。
Asset Tag	管理タグ番号が割り当てられている場合、ユーザーがプログラム可能なシステムの管理タグ番号を表示します。10 文字までの管理タグ番号を NVRAM に割り当てるには、 「管理タグ設定ユーティリティ」 を参照してください。

Integrated Devices 画面

表 3-3 に、Integrated Devices 画面に表示される情報フィールドのオプションおよび説明を一覧表示します。

表 3-3. Integrated Devices 画面オプション

オプション	説明
Embedded RAID Controller	RAID、SCSI、または Off を選択します。オプションの ROMB が取り付けられているかどうかによって、設定可能なオプションは変わります。 <ul style="list-style-type: none"> 1 ROMB が取り付けられている場合 – RAID Enabled、SCSI Enabled、または Off を選択します。 1 ROMB が取り付けられていない場合 – SCSI または Off を選択します。
IDE Controller	内蔵 IDE CD コントローラを有効にします。Auto に設定すると、IDE デバイスがチャネルに接続されていて外付け IDE コントローラが検出されない場合、内蔵 IDE コントローラの各チャネルは有効になります。そうでない場合、チャネルは無効です。
Diskette Controller (デフォルトは Auto)	システムのディスクドライブコントローラを有効または無効にします。Auto を選択すると、拡張スロットに取り付けられているコントローラカードを使用する必要がある場合、システムはコントローラをオフにします。ドライブを読み取り専用に設定することもできます。読み取り専用設定を使うと、ドライブを使用してディスクに書き込むことができません。
USB Controller (デフォルトは On with BIOS support)	システムの USB ポートを有効または無効にします。オプションは、On with BIOS support、On without BIOS support、または Off です。USB ポートを無効にすると、その他のデバイスがシステムリソースを利用できるようになります。
Embedded Gb NIC 1 and NIC 2	システムの内蔵 NIC を有効または無効にします。オプションは、Enabled および Disabled です。
NIC 1 PXE	NIC 1 PXE サポートを有効または無効にします。オプションは、Enabled および Disabled です。PXE サポートを使用して、システムをネットワークから起動することができます。変更はシステムの再起動後に有効になります。
NIC 2 PXE	NIC 2 PXE サポートを有効または無効にします。オプションは、Enabled および Disabled です。PXE サポートを使用して、システムをネットワークから起動することができます。変更はシステムの再起動後に有効になります。
MAC Address	内蔵 Gb NIC の MAC アドレスを表示します。このフィールドには、ユーザーが選択できる設定はありません。
Serial Port (デフォルトは Auto)	シリアルポートオプションは、COM1、COM3、Auto、および Off です。 シリアルポートを Auto に設定すると、内蔵ポートは自動的に次に利用できるポートをマップします。シリアルポートは最初に COM1 を、次に COM3 の使用を試みます。特定のポートに対してどちらのアドレスも使用中の場合、そのポートは無効です。 シリアルポートを Auto に設定し、同じ指定先に設定されたポートを搭載した拡張カードを追加した場合、システムは内蔵ポートを次の利用可能な同じ I/O 設定を共有しているポート指定に、自動的に再マップします。 シリアルポートを Off に設定すると、システムは自動的に内蔵ポートを ERA/O コントローラカードに再マップします。
Speaker (デフォルトは On)	内蔵スピーカーを On または Off にします。このオプションへの変更はただちに有効になります(再起動は必要ありません)。

Console Redirection 画面

表 3-4 に、Console Redirection 画面に表示される情報フィールドのオプションおよび説明を一覧表示します。コンソールリダイレクションの使い方については、「[コンソールリダイレクションの使い方](#)」を参照してください。

表 3-4. Console Redirection 画面オプション

オプション	説明
Console Redirection (デフォルトは Off)	コンソールリダイレクション機能を On または Off に設定します。
Remote Terminal Type(デフォルトは VT 100 / VT 220)	VT 100 / VT 220 または ANSI を選択します。
Redirection After Boot (デフォルトは Enabled)	システム再起動後、コンソールリダイレクションを有効または無効にします。

System Security画面

表 3-5 に、System Security 画面に表示される情報フィールドのオプションおよび説明を一覧表示します。

表 3-5. System Security 画面オプション

オプション	説明
System Password	システムのパスワードセキュリティ機能の現在の状態が表示され、新しいシステムパスワードを設定したり確認することができます。 メモ: システムパスワードの設定、および既存のシステムパスワードの使用または変更に関する手順については、「 システムパスワードの使い方 」を参照してください。
Setup Password	システムパスワード機能を使ってシステムへのアクセスを制限するのと同じ要領で、セットアップユーティリティへのアクセスを制限できます。 メモ: セットアップパスワードの設定、および既存のセットアップパスワードの使用または変更に関する手順については、「 セットアップパスワードの使い方 」を参照してください。
Password Status	Setup Password オプションを Enabled に設定すると、システム起動時にシステムパスワードを変更したり、無効にすることはできません。 システムパスワードをロックするには、まず Setup Password オプションでセットアップパスワードを設定し、次に Password Status オプションを Locked に変更します。この状態では、System Password オプションを使ってシステムパスワードを変更したり、<Ctrl><Enter> を押してシステム起動時にパスワードを無効にすることはできません。 システムパスワードのロックを解除するには、まず Setup Password フィールドでセットアップパスワードを入力し、次に Password Status オプションを Unlocked に変更します。この状態では、<Ctrl><Enter> を押してシステム起動時にシステムパスワードを無効にしたり、System Password オプションを使ってシステムパスワードを変更することができます。
Extended Security	システムパスワードが入力され、Extended Security オプションが Enabled に設定されると、BIOS POST 中に <F2> キーを除くすべてのキーがロックされます。BIOS POST 中に <F2> キーを押すと、オペレーティングシステムの起動を継続する前に、有効なパスワードの入力をおこなうために 20 秒待つと、パスワードプロンプトが表示されます。
Power Button	システムの電源をオンまたはオフにします。 <ul style="list-style-type: none"> 1 電源ボタンを使ってシステムの電源を切る際に、ACPI 対応のオペレーティングシステムを実行している場合、システムは電源が切れる前に正常なシャットダウンを実行することができます。 1 システムが ACPI 対応のオペレーティングシステムを実行していない場合、電源ボタンを押すと電源はただちに切れます。

	ボタンは、セットアップユーティリティで有効になっています。無効に設定すると、システムの電源を入れる場合にのみボタンを使用できます。
NMI Button	注意: 認定を受けたサポート担当者またはオペレーティング システムのマニュアルによって指示された場合にのみ、NMI ボタンを使用してください。このボタンを押すと、オペレーティングシステムが停止し、診断プログラム画面が表示されます。 NMI を On または Off に設定します。

Exit 画面

<Esc> を押してセットアップユーティリティを終了すると、Exit 画面に次のオプションが表示されます。

- 1 Save Changes and Exit (変更を保存して終了)
- 1 Discard Changes and Exit (変更を保存せずに終了)
- 1 Return to Setup (セットアップへ戻る)

システムパスワードとセットアップパスワードの機能

-  **注意:** パスワード機能は、システム内のデータに対して基本的なセキュリティを提供します。より強固なセキュリティが必要なデータについては、データ暗号化プログラムなどの保護機能をご使用ください。
-  **注意:** システムパスワードを設定せずに動作中のシステムから離れたり、システムをロックせずに放置した場合、第三者がジャンパの設定を変更して、パスワード機能を無効にすることができます。その結果、誰でもシステムに保存された情報にアクセスできるようになります。

お使いのシステムは、出荷時にはシステムパスワードが設定されていません。システムのセキュリティが必要な場合、システムパスワード保護機能を有効にしてシステムを操作してください。

既存のパスワードを変更したり削除するには、そのパスワードを事前知っておく必要があります。「[既存のシステムパスワードの取り消しと変更](#)」を参照してください。パスワードを忘れると、訓練を受けたサービス技術者がパスワードジャンパの設定を変更してパスワードを無効にし、既存のパスワードを消去するまで、システムを操作したり、セットアップユーティリティの設定を変更することはできません。この手順は、『インストール & トラブルシューティングガイド』に記載されています。

システムパスワードの使い方

システムパスワードを設定すると、パスワードを知っているユーザーでなければ、システムの全機能を使用することはできません。System Password オプションを Enabled に設定すると、システムパスワード要求のプロンプトがシステムの起動後に表示されます。

システムパスワードの設定

システムパスワードを設定する前に、セットアップユーティリティを起動して、System Password オプションを確認します。

システムパスワードが設定されている場合、System Password オプションは Enabled に設定されています。Password Status が Unlocked に設定されている場合、システムパスワードを変更できます。Password Status オプションが Locked に設定されている場合、システムパスワードは変更できません。ジャンパ設定によってシステムパスワード機能が無効になっている場合、その設定は Disabled で、システムパスワードを変更したり新しいシステムパスワードを入力することはできません。

システムパスワードが設定されておらず、システム基板上的パスワードジャンパが有効な位置(デフォルト)に設定されている場合、System Password オプションは Not Enabled と表示され、Password Status フィールドは Unlocked と表示されます。システムパスワードを設定するには、次の手順を実行します。

1. Password Status オプションが Unlocked に設定されていることを確認します。
2. System Password オプションをハイライト表示して、<Enter> を押します。
3. 新しいシステムパスワードを入力します。

パスワードには 32 文字まで使用できます。

それぞれの文字キー(または空白としてのスペースバー)を押すごとに「*」が表示されます。

パスワードの設定では、大文字と小文字は区別されません。ただし、無効なキーの組み合わせもあります。そのような組み合わせで入力すると、システムからビーブ音が鳴ります。入力したパスワードの文字を訂正する場合、<Backspace> または左矢印キーを押します。

 **メモ:** システムパスワードの設定を途中で中止したい場合、<Enter> を押して別のフィールドに移動するか、手順 5 を終了する前に <Esc> を押します。

4. <Enter> を押します。
5. パスワードを確認するために、再度パスワードを入力して <Enter> を押します。

System Password の設定表示が Enabled に変わります。セットアップユーティリティを終了して、システムを使用します。

6. ここでシステムを再起動してパスワード保護機能を有効にするか、作業を続けます。

 **メモ:** システムを再起動するまでパスワード保護機能は有効になりません。

システムを保護するためのシステムパスワードの使い方

 **メモ:** セットアップパスワードを設定している場合(「[セットアップパスワードの使い方](#)」を参照)、システムはセットアップパスワードをシステムパスワードの代用として受け付けます。

Password Status オプションが Unlocked に設定されている場合、パスワード保護機能を有効または無効にできます。

パスワード保護機能を有効にするには、次の手順を実行します。

1. システムの電源を入れるか、<Ctrl><Alt> を押してシステムを再起動します。
2. <Enter> を押します。
3. パスワードを入力して、<Enter> を押します。

パスワード保護機能を無効にするには、次の手順を実行します。

1. システムの電源を入れるか、<Ctrl><Alt> を押してシステムを再起動します。
2. <Ctrl><Enter> を押します。

Password Status オプションが Locked に設定されている場合、システムを起動したり <Ctrl><Alt> を押して再起動するたびに、プロンプト画面でパスワードを入力して <Enter> を押します。

正しいシステムパスワードを入力して <Enter> を押すと、システムは通常どおりに動作します。

間違っシステムパスワードが入力された場合、システムはメッセージを表示し、パスワードを再入力するよう求めます。3 回目までに正しいパスワードを入力します。間違っパスワードが 3 回入力されると、システムは間違っパスワードの入力回数を表示するエラーメッセージを表示し、システムが停止し、シャットダウンします。このメッセージは、認証されていないユーザーがシステムの使用を試みたことを警告します。

システムをシャットダウンして再起動しても、正しいパスワードが入力されるまで、このエラーメッセージは表示されます。

 **メモ:** Password Status オプションの他に System Password と Setup Password オプションも併用すると、無許可の変更からシステムをさらに保護することができます。

既存のシステムパスワードの取り消しと変更

1. プロンプトが表示されたら、<Ctrl><Enter> を押して既存のシステムパスワードを無効にします。
セットアップパスワードを入力するよう求められた場合、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
2. POST 中に <F2> を押して、セットアップユーティリティを起動します。
3. System Security 画面フィールドを選んで、Password Status オプションが Unlocked に設定されていることを確認します。
4. プロンプトが表示されたら、システムパスワードを入力します。
5. System Password オプションに Not Enabled と表示されていることを確認します。

System Password オプションに Not Enabled と表示されている場合、システムパスワードは取り消されています。System Password オプションに Enabled と表示されている場合、<Alt> を押してシステムを再起動し、手順 2 ~ 手順 5 を繰り返します。

セットアップパスワードの使い方

セットアップパスワードの設定

セットアップパスワードは、Setup Password オプションが Not Enabled に設定されている場合にのみ、設定(または変更)できます。セットアップパスワードを設定するには、Setup Password オプションをハイライト表示して、<+> または <-> キーを押します。パスワードの入力と確認のプロンプトが表示されます。パスワードに使用できない文字を指定すると、システムからビープ音が鳴ります。

 **メモ:** セットアップパスワードとシステムパスワードは同じでもかまいません。それら 2 つのパスワードが異なる場合でも、セットアップパスワードをシステムパスワードの代わりに使用することができます。ただし、システムパスワードは、セットアップパスワードの代わりに使用することができません。

パスワードには 32 文字まで使用できます。

それぞれの文字キー(または空白としてのスペースバー)を押すごとに「*」が表示されます。

パスワードの設定では、大文字と小文字は区別されません。ただし、無効なキーの組み合わせもあります。そのような組み合わせで入力すると、システムからビープ音が鳴ります。入力したパスワードの文字を訂正する場合、<Backspace> または左矢印キーを押します。

パスワードの確認が終わると、Setup Password の設定は Enabled に変わります。これ以降、セットアップユーティリティを起動する際に、セットアップパスワードの入力を求められます。

Setup Password オプションへの変更は、ただちに有効になります(システムを再起動する必要ありません)。

セットアップパスワードが有効な場合の操作

Setup Password が Enabled に設定されている場合、正しいセットアップパスワードを入力しないと、ほとんどのセットアップオプションを変更できません。セットアップユーティリティを起動すると、プロンプトが表示され、パスワードを入力するよう求められます。

3 回までの入力でも正しいパスワードを入力しないと、セットアップユーティリティ画面は表示されますが、次の例を除いて変更することはできません。System Password が Enabled に設定されておらず、また Password Status オプションを使ってロックされていない場合、システムパスワードを設定できます(ただし、既存のシステムパスワードを無効にしたり変更することはできません)。

 **メモ:** Setup Password オプションと Password Status オプションを併用すると、無許可の変更からシステムパスワードを保護することができます。

既存のセットアップパスワードの取り消しと変更

1. セットアップユーティリティを起動して、System Security オプションを選びます。
2. Setup Password オプションをハイライト表示し、<Enter> を押してセットアップパスワードウィンドウにアクセスし、<Enter> を 2 回押して既存のセットアップパスワードをクリアします。
設定は Not Enabled に変わります。
3. 新しいセットアップパスワードを設定する場合、「[セットアップパスワードの設定](#)」の手順を実行します。

パスワードを忘れたとき

『インストール&トラブルシューティングガイド』を参照してください。

管理タグ設定ユーティリティ

管理タグ設定ユーティリティを使って、一意のトラッキング番号をシステムに設定することができます。この番号は、セットアップユーティリティのメイン画面に表示されます。

 **メモ:** 管理タグ設定ユーティリティは、MSDOS® ベースのアプリケーションをサポートするオペレーティングシステムでのみ機能します。

管理タグ設定ユーティリティディスクの作成

1. 『Dell OpenManage Server Assistant CD』を Microsoft® Windows® オペレーティングシステムを実行している Dell™ PowerEdge™ システムの CD ドライブ に挿入し、システムを再起動します。
2. 空のディスクをシステムのディスクドライブに挿入します。
3. Dell OpenManage Server Assistant メイン画面で、System Tools(システムツール) をクリックします。
4. Create CD Boot Diskette(CD 起動ディスクの作成) を選びます。

管理タグ番号の割り当てまたは削除

1. 作成した管理タグ設定ユーティリティディスクをディスクドライブに挿入し、システムを再起動します。
2. 管理タグ番号は、割り当てたり削除することができます。
 - 1 管理タグ番号を割り当てるには、asset とスペースを入力して、その後新しいストリングを入力します。

管理タグ番号は最大で 10 文字まで入力できます。すべての文字の組み合わせが有効です。たとえば、a:\> プロンプトで、次のコマンドを入力して、<Enter> を押します。

```
asset 12345abcde
```

- 1 新しい番号を割り当てずに管理タグ番号を削除するには、asset /d と入力して、<Enter> を押します。
3. 管理タグ番号の変更を確認するよう指示されたら、y と入力して、<Enter> を押します。

管理タグ設定ユーティリティのヘルプ画面を表示するには、asset /? と入力して、<Enter> を押します。

[目次へ戻る](#)

[目次へ戻る](#)

用語集

Dell™ PowerEdge™ 1750 システム ユーザーズガイド

次のリストでは、システムのマニュアルで使用される技術用語、略語の意味を示します。

A

ampere (アンペア)

AC

alternating current (交流)

ACPI

Advanced Configuration and Power Interface (電源管理規格の 1 つ)

ANSI

American National Standards Institute (米国規格協会)

BIOS

basic input/output system (基本入出力システム)。システムの BIOS は、フラッシュメモリチップに格納された複数のプログラムから成ります。BIOS は、以下の事項を制御します。

- 1 マイクロプロセッサとキーボードやビデオアダプタなどの周辺機器間の通信
- 1 システムメッセージなどの付属機能

bps

bits per second (1 秒あたりのビット数)

BTU

British Thermal Unit (英式熱量単位)

C

Celsius (摂氏)

CD

compact disk (コンパクトディスク)。CD ドライブでは光学テクノロジーを使って、CD からデータを読み取ります。CD は読み取り専用のストレージデバイスです。通常の CD ドライブでは、新しいデータを CD に書き込むことはできません。

COMn

システムの第 1 シリアルポートから第 4 シリアルポートに対応するデバイス名は、COM1、COM2、COM3 および COM4 です。COM1 および COM3 のデフォルト割り込みは IRQ4、そして COM2 および COM4 のデフォルト割り込みは IRQ3 です。従って、シリアルデバイスを実行するソフトウェアを設定するときは、割り込みコンフリクトが発生しないように注意する必要があります。

CPU

central processing unit (中央演算処理装置)。**マイクロプロセッサ**を参照してください。

DC

direct current (直流)

DDR

double-data rate (2 倍データ率)

DHCP

Dynamic Host Configuration Protocol

DIMM

dual in-line memory module (デュアルインラインメモリモジュール)。DRAM チップを組み込んだ小型回路基板で、システム基板に接続します。

DIN

Deutsche Industrie Norm (ドイツ工業規格)

DMA

direct memory access (ダイレクトメモリアクセス)。DMA チャンネルを使うと、RAM とデバイス間でのデータ転送がマイクロプロセッサを介さずにおこなえるようになります。

DNS

Domain Name System (ドメイン名システム)

DRAM

dynamic random-access memory (ダイナミックランダムアクセスメモリ)。通常、システムの RAM は DRAM チップのみで構成されます。DRAM チップは電荷を長く保持できないため、システムの各 DRAM マイクロプロセッサは定期的にはリフレッシュされます。

DVD

digital versatile disk (デジタル汎用ディスク)

ECC

error checking and correction (エラーチェックおよび訂正)

EEPROM

electrically erasable programmable read-only memory (電氣的に消去 / 書き込み可能な ROM)

EMC

Electromagnetic Compatibility (電磁環境両立)

EMI

electromagnetic interference (電磁波障害)

ERA / O

embedded remote access (組み込み型リモートアクセス)オプション。ERA / O によって、オプションの RAC (リモートアクセスコントローラ)を使ったネットワークサーバのリモートサーバ管理、または「バンド外」サーバ管理が可能になります。

ESD

electrostatic discharge (静電気放出)

F

Fahrenheit (華氏)

FAT

file allocation table (ファイル割り当てテーブル)。FAT はファイルストレージを管理するために MS-DOS® で使用されるファイルシステム構造です。Windows NT® オペレーティングシステムでは、オプションとして FAT ファイルシステム構造を使用することができます。

FCC

Federal Communications Commission (連邦通信委員会)

FSB

front side bus (フロントサイドバス)。FSB はマイクロプロセッサとメインメモリ (RAM) 間のデータバスおよび物理インタフェースです。

ft

feet (フィート)

FTP

file transfer protocol (ファイル転送プロトコル)

g

gram (グラム)

G

gravities (重力)

GB

gigabyte (ギガバイト)。1 GB は 1,024 MB (1,073,741,824 バイト)です。

Gb

gigabite (ギガビット)。1 ギガビットは 100 万ビットに相当します。

h

hexadecimal (16進法)。システムの RAM のアドレスや I/O メモリのデバイス用アドレスを指定するために使われる、16 を基数とする記数法です。たとえば、0 から 16 までの 10 進数は 16 進法では、0、1、2、3、4、5、6、7、8、9、A、B、C、D、E、F、10 のように表されます。テキスト内では、数字の後に h を付けます。

Hz

hertz (ヘルツ)

I/O

input/output (入出力)。キーボードは入力デバイスであり、プリンタは出力デバイスです。一般に、I/O 動作はコンピュータ計算とは区別することができます。たとえば、プログラムが文書をプリンタに送るときが出力動作、用語のリストをソートするときにコンピュータ計算です。

ID

identification (識別)

IDE

integrated drive electronics

IP

Internet Protocol (インターネットプロトコル)

IPX

Internetwork Packet EXchange

IRQ

interrupt request (割り込み要求)。周辺機器からデータを送受信するときの信号は、IRQ を介してマイクロプロセッサに送られます。各デバイスコネクタには、IRQ 番号を割り当てなければなりません。たとえば、お使いのシステムの第 1 シリアルポート (COM1) には、デフォルトで IRQ4 が割り当てられています。2 つのデバイスに同じ IRQ 番号を共有することはできませんが、両方のデバイスを同時に動作させることはできません。

ITE

information technology equipment (情報技術設備)

K

kilo- (キロ)。1,000 を表します。

KB

kilobyte (キロバイト)。1 キロバイトは、1,024 バイトです。

KB / 秒

kilobyte per second (1 秒あたりのキロバイト数)

Kbit

kilobit (キロビット)。1 キロビットは 1,024 ビットです。

Kbit / 秒

kilobit per second (1 秒あたりのキロビット数)

kg

kilogram (キログラム)。1 キログラムは、1,000 グラムです。

KHz

kilohertz (キロヘルツ)。1 キロヘルツは、1,000 ヘルツです。

LAN

local area network (ローカルエリアネットワーク)。通常、LAN システムは、すべての装置が LAN 専用のワイヤによって接続されている近隣の建物内だけで使われます。

lb

pound (ポンド)

LED

light-emitting diode (発光ダイオード)。LED は、電流が通過すると点灯する電子装置です。

Linux

さまざまなハードウェアシステムで利用可能な UNIX® のバージョンです。Linux は無料で利用できるオープンソースソフトウェアですが、Red Hat Software (www.redhat.com) のようなベンダから、テクニカルサポートやトレーニングを伴った完全な形で提供が有償でなされています。

m

meter (メートル)

mA

milliampere (ミリアンペア)

MAC

Media Access Control (メディアアクセス制御)

mAh

milliampere-hour (ミリアンペア時)

Mb

megabit (メガビット)

MB

megabyte (メガバイト)。1 メガバイトは、1,024 キロバイトまたは 1,048,576 バイトです。ただし、ハードドライブの容量を表す場合は、通常、概数にして 100 万バイトとします。

MB / 秒

megabytes per second (1 秒あたりのメガバイト数)

Mbps

megabits per second (1 秒あたりのメガビット数)

MBR

master boot record (マスタブートレコード)

MHz

megahertz (メガヘルツ)

mm

millimeter (ミリメートル)

MPEG

Motion Picture Experts Group。MPEG は、デジタルビデオファイルフォーマットです。

ms

millisecond (ミリ秒)

MS-DOS

Microsoft Disk Operating System (マイクロソフトディスクオペレーティングシステム)

NAS

Network Attached Storage (ネットワーク接続ストレージ)。NAS は、ネットワーク上に共有ストレージを実現するのに使用される概念の 1 つです。ネットワーク通信は、Microsoft Windows 環境では CIFS (Common Internet File System) を、UNIX® 環境では NFS (Network File System)、FTP、http、および他のネットワーキングプロトコルを利用します。

NDIS

Network Driver Interface Specification (ネットワークドライバインタフェース仕様)

NIC

network interface controller (ネットワークインタフェースコントローラ)

NMI

nonmaskable interrupt (マスク不能割り込み)。パリティエラーなどのハードウェアエラーが起きた場合、デバイスはマイクロプロセッサに知らせるために NMI を送ります。

ns

nanosecond (ナノ秒)。10 億分の 1 秒。

NTFS

NT File System (NT ファイルシステム)。Windows NT オペレーティングシステムのオプションです。

NVRAM

nonvolatile random-access memory (不揮発性ランダムアクセスメモリ)。システムの電源を切っても、内容は失われません。NVRAM は、日付、時刻、システム設定情報の保持に使用されます。

PCI

Peripheral Component Interconnect (周辺機器相互接続)。Intel Corporation によって開発された標準ローカルバスの規格です。

PDU

power distribution unit (配電装置)。PDU は、複数のコンセントの付いた電源で、ラック内のサーバやストレージシステムに電力を供給します。

PGA

pin grid array (ピングリッドアレイ)。マイクロプロセッサチップの取り外し可能なマイクロプロセッサソケット。

POST

power-on self-test (電源投入時の自己診断)。システムの電源が入ると、オペレーティングシステムをロードする前に、POST が RAM、ディスクドライブ、キーボードなどのさまざまなシステムコンポーネントをテストします。

PS/2

Personal System/2

PXE

Preboot Execution Environment (プリブート実行環境)

RAC

remote access controller (リモートアクセスコントローラ)

RAID

redundant array of independent disks。さまざまなレベルで高速性と耐故障性を実現する複数の独立したハードドライブのアレイ。

以下の RAID レベルがさまざまなパフォーマンス、信頼性、およびコストの組み合わせを提供します。Level 0 (ストライピング)、Level 1 (ミラリング)、Level 5 (パリティ付きストライピング)、Level 10 (ミラリング付きストライピング)、Level 50 (連結 Level 5 アレイ)。

RAID 0

通常、RAID 0 はストライピングと呼ばれます。RAID 0 は最初の RAID レベル定義にはありませんでしたが、広く普及していきましました。このアレイ構成では、データは使用可能な複数のディスクに逐次的に書き込まれ、冗長性はありません。RAID 0 構成は高速性を実現できますが、信頼性は低くなります。RAID 0 は、コントローラカードが二重化されている場合に最適です。ストライピングを参照してください。

RAID 1

通常、RAID 1 はミラリングと呼ばれます。RAID 1 ではストライピングも使うので、RAID 1 を RAID 0 構成のミラリングとみなすことができます。RAID 1 は、高速性が重要であるか、または大きなデータ容量を必要としない高可用性のアプリケーションに最適です。ミラリング、RAID 10、ストライピングを参照してください。

RAID 3

通常、RAID 3 はガーディングと呼ばれます。RAID 0 と同様にデータストライピングを使用しますが、冗長性およびブロックレベルパラレルアクセス専用のパリティドライブを 1 台使用します。失われたデータを故障したドライブから回復するため、このドライブに保存されたパリティデータを使用することができます。パリティデータを生成するには、複数の物理ドライブから頻繁なデータの読み出しが必要で、RAID 3 は通常、ビデオストリーミングのように大量の連続した I/O や高いデータ転送速度が必要な場合に使用されます。ガーディングおよびストライピングを参照してください。

RAID 4

通常、RAID 4 はガーディングと呼ばれます。RAID 3 のように単一の専用パリティドライブを使用しますが、単一の物理ドライブへの一度に大きなデータのブロックの読み書きを必要とします。ガーディングおよびストライピングを参照してください。

RAID 5

通常、RAID 5 はガーディングと呼ばれます。RAID 5 は RAID 4 と同じですが、パリティデータを専用のパリティドライブに保存するのではなく、すべての物理ドライブに均等に分散して保存する点異なります。多くの物理ドライブを使って小規模の同時書き込み処理を大量に実行する構成では、RAID 4 よりも RAID 5 の方が高速です。RAID 4 および RAID 5 構成は、高速性はそれほど重要ではないが大きな容量が必要な高可用性のアプリケーションに適しています。ガーディングを参照してください。

RAID 10 (RAID 1+0)

RAID 10 は通常 RAID 1+0 と呼ばれます。RAID 10 はミラー化されたドライブ (RAID 1) とデータストライピング (RAID 0) を組み合わせた複数レベルのアレイです。RAID 10 構成では、データは 2 つのドライブにミラーされ、その後 2 つ以上のミラードライブにストライプされます。RAID 10 はストライプアレイのデータ転送の利点とミラーアレイのアクセス性を提供します。失われたデータはパリティ情報から再生成される必要がなく、動作し続けているドライブから単独にコピーされるだけなので、ドライブを再構築中のシステムのパフォーマンスはパリティベースのアレイに比べて優れています。

RAID 50

2 つ以上の連結された RAID 5 アレイ。たとえば、ある RAID 5 アレイが 3 つのドライブで実現され、そのアレイが 3 つ連続すると RAID 50 アレイになります。RAID 50 はパリティを介してデータの冗長性を提供します。パリティを参照してください。

RAM

random-access memory (ランダムアクセスメモリ)。プログラムの命令やデータを保存するシステムの主要な一次記憶領域。RAM 内部の各領域は、メモリアドレスと呼ばれる数値によって識別されます。RAM に保存されている情報は、システムの電源が切れるとすべて失われます。

RAS

Remote Access Service (リモートアクセスサービス)。このサービスによって、Windows オペレーティングシステムを実行しているユーザーは、モデムを使ってユーザーのシステムからネットワークにリモートでアクセスできます。

readmeファイル

ソフトウェアパッケージまたはハードウェア製品に付属するテキストファイル。ソフトウェアまたはハードウェアのマニュアルの補助およびアップグレード情報が記載されています。通常、readme ファイルには、マニュアルに記載されていないインストール情報、新製品についての説明、あるいは訂正文が含まれます。また、ソフトウェアまたはハードウェアを使用する際に必要となる、既知の問題やその他の事項が記載されています。

ROM

read-only memory (読み取り専用メモリ)。システムの動作に必要なプログラムのいくつかは、ROM コードの中に保存されています。RAM とは異なり、ROM チップはシステムの電源が切れた後もその内容を保持します。ROM 内にあるコードには、システムの起動ルーチンを開始するプログラムや POST などが含まれます。

ROMB

RAID on Motherboard (マザーボード上の RAID)

rpm

revolutions per minute (1 分間あたりの回転数)

RTC

real-time clock (実時刻時計)。システム内部にあるバッテリーで動く時計回路で、システムの電源を切った後も、日付と時刻を保持します。

SCSI

small computer system interface (小型コンピュータシステムインタフェース)。通常のポートよりも速いデータ転送速度を持つ I/O バスインタフェース。1 つの SCSI インタフェースに最大 7 つのデバイス (いくつかの新しい SCSI タイプは 15) を接続できます。

SDMS

SCSI device management system (SCSI デバイス管理システム)

SDRAM

synchronous dynamic random-access memory (同期ダイナミックランダムアクセスメモリ)

sec

second (秒)

SIMM

single in-line memory module (シングルインラインメモリモジュール)。DRAM チップを組み込んだ小型回路基板で、システム基板に接続します。

SMART

Self-Monitoring Analysis and Reporting Technology。システム BIOS にエラーや障害があった場合に、ハードドライブが報告し、画面にエラーメッセージを表示するための技術です。この技術を利用するには、SMART 標準のハードドライブおよびシステム BIOS のサポートが必要です。

SNMP

Simple Network Management Protocol。SNMP は業界標準のインタフェースです。SNMP によって、ネットワーク管理者はリモートでワークステーションを監視したり管理することができます。

SRAM

static random-access memory (スタティック RAM)。SRAM チップは、リフレッシュが必要ないため、DRAM チップよりも数倍高速です。

SVGA

super video graphics array (スーパービデオグラフィックスアレイ)。VGA と SVGA は、従来の規格よりも高解像度の色表示機能を持つ、ビデオアダプタに関連するビデオ規格です。

特定の解像度でプログラムを表示するには、モニタが解像度をサポートし、適切なビデオドライバをインストールしなければなりません。また、プログラムで表示できる色数は、モニタやビデオドライバの機能と、システムにインストールされたビデオメモリ容量に応じて異なります。

system.iniファイル

Windows オペレーティングシステム用の起動ファイル。Windows を起動すると、Windows は system.ini ファイルを調べ、動作環境に関する各種オプションを決定します。system.ini ファイルに記録されている情報には、どのようなビデオ、マウス、キーボードドライバが Windows にインストールされているかなどが含まれます。

コントロールパネルまたは、Windows のセットアッププログラムを実行すると、system.ini ファイルのオプションを変更できます。それ以外の場合は、メモ帳などのテキストエディタを使用して、手動で system.ini ファイルのオプションの変更や追加をおこなう必要があります。

UL

Underwriters Laboratories (保険業者研究所)

UMB

upper memory blocks (アッパーメモリブロック)

UNIX

UNiversal Internet eXchange。Linux の土台である UNIX は、C プログラミング言語で書かれたオペレーティングシステムです。UNIX は移植性と柔軟性に富んでいて、コンピュータワークステーションの主要なオペレーティングシステムになっています。

UPS

uninterruptible power supply (無停電電源装置)。電氣的な障害が発生した場合に、システムの電源が切れないようにするためのバッテリー電源装置です。

USB

Universal Serial Bus (ユニバーサルシリアルバス)。USB コネクタによって、マウス、キーボード、プリンタ、スピーカーなど、USB に準拠した複数のデバイスに対して、単独結合ポイントを使えるようになります。USB デバイスは、システムが起動中でも接続したり、取り外すことができます。

UTP

unshielded twisted pair (シールドなしツイストペア)

V

volt (ボルト)

VAC

volt alternating current (ボルト交流)

VCCI

Voluntary Control Council for Interference (電波障害自主規制協議会)

VDC

volt direct current (ボルト直流)

VGA

video graphics array (ビデオグラフィックスアレイ)。VGA と SVGA は、従来の規格よりも高解像度の色表示機能を持つ、ビデオアダプタに関連するビデオ規格です。

特定の解像度でプログラムを表示するには、モニタが解像度をサポートし、適切なビデオドライバをインストールしなければなりません。また、プログラムで表示できる色数は、モニタやビデオドライバの機能と、ビデオアダプタにインストールされたビデオメモリ容量に応じて異なります。

VRAM

video random-access memory (ビデオランダムアクセスメモリ)。ビデオアダプタの中には、VRAM チップ(または VRAM と DRAM の組み合わせ)を使用してビデオ性能の向上を図っているものがあります。VRAM はデュアルポートであるため、ビデオアダプタを通じて、画面の更新と新しい画像データの受信を同時におこなうことができます。

W

watt (ワット)

WH

watt-hour (ワット時)

win.ini ファイル

Windows オペレーティングシステム用の起動ファイル。Windows を起動すると、Windows は win.ini ファイルを調べ、動作環境に関する各種オプションを決定します。win.ini ファイルに記録されている情報には、どのようなプリンタやフォントが Windows にインストールされているかなどが含まれます。また、win.ini ファイルには、ハードドライブにインストールされている Windows アプリケーションプログラムのオプションを設定するセクションも含まれています。

コントロールパネルまたは Windows のセットアッププログラムを実行すると、win.ini ファイルのオプションを変更できます。それ以外の場合は、メモ帳などのテキストエディタを使用して、手動で win.ini ファイルのオプションの変更や追加をおこなう必要があります。

Windows.NET

XML ウェブサービスを介してソフトウェアの統合を可能にする Microsoft のソフトウェアテクノロジー。XML ウェブサービスは、通常接続されていないソース間でデータ通信を可能にする XML で書かれた再利用可能なサイズの小さいアプリケーションです。

Windows 2000

MS-DOS を必要とせず、高度なオペレーティングシステム機能を提供する完全統合 Microsoft Windows オペレーティングシステムです。使用が簡単で、ワークグループ機能が強化され、ファイル管理と閲覧が簡素化されています。

アダプタカード

コンピュータのシステム基板上の拡張カードコネクタに差し込む拡張カードです。アダプタカードは、拡張バスと周辺機器間のインタフェースを提供することによって、システムに特殊な機能を追加します。アダプタカードの例として、ネットワークカード、サウンドカード、SCSI アダプタなどがあります。

アプリケーション

ユーザーが、特定のタスクまたは一連のタスクを実行するのを助けるためのソフトウェア (表計算プログラムやワードプロセッサなど)。アプリケーションプログラムは、オペレーティングシステムから実行されます。

インタレース

画面上の代替水平線だけを更新してビデオ解像度を増加させる技法。インタレースを使用すると画面のちらつきが目立つ場合があるため、ユーザーにはノンインタレースのビデオアダプタ解像度が好まれています。

ガーディング

データ冗長性的一种で、物理ドライブのセットを使用してデータを保存し、さらに 1 台の追加ドライブを使用してパリティデータを保存します。ガーディングにより、1 台のドライブに障害が発生してもデータは保護されます。大容量のシステムでは、ガーディングの方がコストパフォーマンスが高いため、場合によっては、ミラリングよりも好んで利用されます。ただし、ガーディング構成の場合、頻りにアレイへの書き込みをおこなうアプリケーションの実行が非常に遅くなります。これはアレイに書き込みをおこなうたびに、パリティ情報の保守のため、複数の読み出し / 書き込みコマンドを必要とするためです。アプリケーションの実行が遅くなるのが問題になる場合は、ミラリングをお勧めします。ミラリング、RAID 4、および RAID 5 も参照してください。

拡張カードコネクタ

拡張カードを差し込むシステム基板、またはライザボード上のコネクタ。

拡張バス

システムには、拡張バスが装着されています。この拡張バスによって、ネットワークカードなどの周辺機器のコントローラとマイクロプロセッサが、通信をおこなうことができます。

画素 (ピクセル)

ビデオ画面上の単一の点。ピクセルは画像を表示するために行列形式に並べられます。たとえば、640×480 というビデオ解像度は、横方向に 640 個のピクセル、縦方向に 480 個のピクセルが並んだ行列として表されます。

管理タグコード

セキュリティまたはトラッキング目的のために、通常、システム管理者がシステムに割り当てる個々のコード。

キーの組み合わせ

コマンドを送るために同時に押す複数のキー。たとえば、<Ctrl><Alt> のキーの組み合わせを押すと、システムを再起動できます。

起動ルーチン

システムを起動すると、すべてのメモリのクリア、デバイスの初期化、およびオペレーティングシステムのロードがおこなわれます。オペレーティングシステムが正常に応答する場合は、<Ctrl><Alt> を押してシステムを再起動できます (ウォームブートとも呼ばれます)。オペレーティングシステムが応答しない場合は、リセットボタンを押すか、システムの電源を一度切ってから入れなおすことによって、システムを再起動 (コールドブート) しなければなりません。

起動ディスク

システムを起動ディスクから起動することができます。起動ディスクを作成するには、ディスクをディスクドライブに挿入し、コマンドラインプロンプトに `sys a:` と入力して、<Enter> を押します。システムがハードドライブから起動しない場合は、この起動ディスクを使用します。

キャッシュ

データを高速検索できるように、データまたは命令のコピーを保持するための記憶領域。たとえば、システムの BIOS では高速 RAM に ROM コードがキャッシュ (保持) されます。あるいは、ディスクキャッシュユーティリティでは、頻繁にアクセスされる情報がシステムのディスクドライブから RAM に保持されます。キャッシュ内にあるデータについて、プログラムからディスクドライブに対して取り出し要求が発行されると、ディスクキャッシュユーティリティは RAM からデータを取り出すので、ディスクドライブから取り出す場合よりも検索時間が短縮されます。

グラフィックコプロセッサ

コプロセッサを参照してください。

グラフィックモード

「x 個の横ピクセル × y 個の縦ピクセル × z 種類のカラー」で定義されるビデオモード。

コントローラ

マイクロプロセッサとメモリ間、またはマイクロプロセッサと周辺機器 (ディスクドライブやキーボードなど) 間のデータ転送を制御するチップ。

コントロールパネル

電源スイッチ、ハードドライブインジケータ、電源インジケータなどのインジケータやボタンを含むシステムの一部。

サービスタグナンバー

テクニカルサポートを受けるためにデールにお電話をいただいた際に、システムを識別するためのシステムに付いているバーコードラベル。

システム基板

主要回路基板であるシステム基板には、一般に以下のような、システムを構成するために必要な部品のほとんどが取り付けられています。

- 1 マイクロプロセッサ
- 1 RAM
- 1 キーボードなどの標準周辺機器のコントローラ
- 1 各種の ROM チップ

システム基板は マザーボード、ロジックボード と同義語です。

システム設定情報

メモリに保存されたデータで、取り付けられているハードウェアの種類およびシステムの動作設定が記載されています。

システムディスク

起動可能ディスク と同義語。

システムメモリ

RAM と同義語。

ジャンパ

ジャンパは回路基板上の小さなブロックで、2 本以上のピンが出ています。ワイヤを格納しているプラスチック製プラグが、ピンに被せられています。ワイヤは、ピン同士を接続して回路を形成します。ジャンパを使用すると、プリント回路基板の回路構成を簡単に変更できます。

周囲温度

システムが置かれている場所や部屋の温度。室内温度とも呼ばれます。

周辺機器

システムに接続される内蔵装置または外付け装置 (プリンタ、ディスクドライブ、キーボードなど)。

シリアルポート

一般的には、モデムをシステムに接続するのに使用される I/O ポート。システムのシリアルポートには、通常、9 ピンコネクタが使われます。

診断プログラム

システム用の総合テストセット。診断プログラムの使用方法の詳細については、『インストール&トラブルシューティングガイド』を参照してください。

数値演算コプロセッサ

コプロセッサを参照してください。

ストライピング

ディスクストライピングは 3 つ以上のアレイディスクにデータを分散して書き込みます。各「ストライプ」は、3 つ以上のアレイディスクにスパンしますが、各ディスクの一部のみを使用します。単一のストライプによって使用されるスペースの量は、ストライプに含まれる各アレイディスクと同じです。仮想ディスクは、同じアレイディスク上の複数のストライプを使用することがあります。

セットアップユーティリティ

BIOS ベースのプログラム。システムのハードウェアを構成したり、パスワードによる保護や電源管理などの機能を設定することによって、システムの動作をカスタマイズすることができます。セットアップユーティリティのオプションの中には、システムを再起動しない（自動で再起動するシステムもあります）、ハードウェア構成の変更が有効にならないものがあります。セットアップユーティリティは NVRAM に保存されるため、どの設定も再度変更しない限り有効に維持されます。

ターミネータ

デバイスの中には（SCSI ケーブルの両端の最後のデバイスなど）、ケーブル内の反射や不要信号を防止するため終端する必要があります。このようなデバイスを連結する場合、デバイスの設定ソフトウェアのジャンパやスイッチの設定を変更することによって、これらのデバイスの終端を有効または無効にする必要があります。

ディレクトリ

ディレクトリは、関連するファイルがディスク上で「逆ツリー」の階層構造になるようにしています。各ディスクには「ルート」ディレクトリがあります。たとえば、通常、C:\> プロンプトはハードドライブ C のルートディレクトリに示していることを示します。ルートディレクトリから分岐する追加のディレクトリは、サブディレクトリとも呼ばれます。サブディレクトリの下には、さらに別のディレクトリが枝状につながっている場合もあります。

テキストモード

x 列 × y 行の文字で定義されるビデオモード。

デバイスドライバ

オペレーティングシステムやその他のプログラムがプリンタなどの周辺機器と正しくインタフェースできるようにするプログラム。ネットワークドライバなどの一部のデバイスドライバは、(device = ステートメントで) config.sys ファイルからロードするか、(通常は autoexec.bat ファイルから)メモリ常驻プログラムとしてロードする必要があります。その他のドライバ(ビデオドライバなど)は、特定のプログラムを実行する際にロードしなければなりません。

ノンインタレース

画面上の水平線を逐次リフレッシュして、画面のちらつきを抑える技法。

パーティション

fdisk コマンドを使用すると、パーティションと呼ばれる複数の物理セクションにハードドライブを分割できます。各パーティションは複数の論理ドライブを持つことができます。

ハードドライブをパーティションに分割した場合、format コマンドを使用して各論理ドライブをフォーマットする必要があります。

バイト

システムで使われる基本的なデータ単位。1 バイトは 8 ビットです。

バス

バスはシステムのコンポーネント間の情報経路を形成します。システムには、拡張バスが搭載されています。この拡張バスによって、システムに接続されているすべての周辺機器のコントローラとマイクロプロセッサが通信をおこなうことができます。また、マイクロプロセッサと RAM 間の通信をおこなうために、アドレスバスとデータバスも搭載されています。

バックアップ

プログラムまたはデータファイルのコピー。不測の事態に備えて、定期的にシステムのハードドライブのバックアップを取ることをお勧めします。システムの設定を変更する前は必ず、重要な起動ファイルをオペレーティングシステムからバックアップしてください。

バックアップバッテリー

バックアップバッテリーはシステムの電源が切られている間、システム設定、日付および時刻の情報をメモリの特別なセクション内に保持します。

パリティ

情報ブロックと関連する冗長情報。

たとえば RAID 5 ボリュームは、一組のハードドライブにデータとパリティを継続的にストライプします。各ストライプの中で、片方のハードドライブのデータはパリティデータで、もう片方のハードドライブのデータは通常のデータです。そのため RAID 5 ボリュームは、このパリティ情報のために最低でも 3 台のハードドライブを必要とします。RAID 0 および RAID 5 を参照してください。

ビーブコード

システムのスピーカーから流れるビーブ形式の診断メッセージ。たとえば、1 つ目のビーブ音、次に 2 つ目のビーブ音、そして 3 つ目の連続したビーブ音が聞こえた場合、ビーブコードは、1-1-3 です。

ビット

システムが認識する情報の最小単位。

ビデオアダプタ

モニタと連携してシステムのビデオ機能を実現するための論理回路。ビデオアダプタが持つ機能の種類は、特定のモニタが持つ機能とは異なる場合があります。通常、ビデオアダプタには、一般的なアプリケーションプログラムやオペレーティングシステムを、様々なビデオモードで表示するためのビデオドライバが付属しています。

いくつかのシステムでは、システム基板にビデオアダプタが組み込まれています。また、拡張カードコネクタに差し込む数多くのビデオアダプタカードが利用できます。

ビデオアダプタには、システム基板の RAM から独立したメモリが組み込まれているものもあります。ビデオメモリの量と、アダプタのビデオドライバによって、同時に表示できる色数が決まります。高速のグラフィックレンダリングを実現するために、ビデオアダプタには独自のマイクロプロセッサが内蔵される場合もあります。

ビデオ解像度

ビデオ解像度は、横方向のピクセル、縦方向のピクセルが並んだ行列として表されます。特定の解像度でプログラムを表示するには、モニタが解像度をサポートし、適切なビデオドライバをインストールしなければなりません。

ビデオドライバ

グラフィックモードのアプリケーションプログラムやオペレーティングシステムにおいて、希望の色数と選択された解像度で表示するためのプログラム。ソフトウェアパッケージには、汎用ビデオドライバが組み込まれているものもあります。ビデオアダプタに適合する追加のビデオドライバが必要になる場合もあります。

ビデオメモリ

多くの VGA ビデオアダプタと SVGA ビデオアダプタには、システムの RAM とは別に、メモリチップが内蔵されています。取り付けられているビデオメモリの容量は、主にプログラムが表示できる色数によって異なります(これは対応するビデオドライバとモニタの機能にもよります)。

ビデオモード

通常、ビデオアダプタは、複数のテキストディスプレイモードおよびグラフィックディスプレイモードをサポートしています。文字をベースにしたソフトウェアは、x 列 × y 行の文字数で表されるテキストモードで表示されます。グラフィックベースのソフトウェアは、「x 個の横ピクセル × y 個の縦ピクセル × z 種類のカラー」で定義されるグラフィックモードで表示されます。

フォーマット

ファイルを保存するためにハードドライブやディスクを準備すること。無条件フォーマットをおこなうと、ディスクに格納された全データが消去されます。

フラッシュメモリ

システムに取り付けた状態で、ディスク内のユーティリティから再プログラム可能な EEPROM チップの一種。多くの EEPROM チップは特殊なプログラム用デバイスを使わなければ、書き込むことはできません。

プログラムディスクセット

オペレーティングシステムまたはアプリケーションプログラムを完全にインストールできるディスクのセット。プログラムを再設定する場合、通常、プログラムディスクセットが必要になります。

プロテクトモード

80286 以上のマイクロプロセッサによってサポートされる動作モード。プロテクトモードでは、オペレーティングシステムを通じて次のことが実現されます。

- 1 16 MB (80286 マイクロプロセッサの場合) ~ 4 GB (Intel386™ 以上のマイクロプロセッサの場合)のメモリアドレススペース
- 1 マルチタスク
- 1 仮想メモリ(ハードドライブを使用して、アドレス指定可能なメモリを増加させる技法)

Windows NT、UNIX 32 ビットオペレーティングシステムは、プロテクトモードで実行されます。MS-DOS はプロテクトモードで実行できません。ただし、MS-DOS から起動できる一部のプログラム (Windows オペレーティングシステムなど)は、システムをプロテクトモードに移行することができます。

ヘッドレスシステム

キーボード、マウス、またはモニタを接続しなくても機能するシステムまたはデバイス。通常、ヘッドレスシステムはインターネットブラウザを使って、インターネットまたはイントラネットネットワーク上で管理されます。システムによっては、特定の管理やサービスの必要性から、キーボード、マウス、およびモニタを接続するようになっているものもあります。

ホストアダプタ

ホストアダプタによって、システムのバスと、周辺機器用のコントローラ間の通信ができます。(ハードドライブコントローラサブシステムには、内蔵ホストアダプタ回路が組み込まれています。) SCSI 拡張バスをシステムに追加するには、適切なホストアダプタを取り付ける必要があります。

マイクロプロセッサ

演算およびロジック機能の解釈と実行を制御する、システム内部のプライマリ計算チップ。1 つのマイクロプロセッサ用に書かれたソフトウェアを、別のマイクロプロセッサで実行するには、ほとんどの場合ソフトウェアを新しく書きなおさなければいけません。CPU はマイクロプロセッサの同義語です。

ミラリング

データ冗長性的一种。複数の物理ドライブを使用してデータを保存し、さらに 1 台以上のドライブを使用して同じデータのコピーを保存します。ミラリングは、小容量のシステムやパフォーマンスが非常に重視されるシステムでよく利用される冗長化技術です。ガーディング、RAID 1、および RAID 10 も参照してください。

メモリアドレス

システムの RAM 内で 16 進法で表される特定の位置。

メモリモジュール

DRAM チップを組み込んだ小型回路基板で、システム基板に接続します。

ユーティリティ

メモリ、ディスクドライブ、プリンタなどのシステムリソースを管理するためのプログラム。

読み取り専用ファイル

読み取り専用ファイルとは、編集や消去が禁止されているファイルのことを言います。ファイルは、以下の場合に読み取り専用になります。

- 1 読み取り専用属性が有効になっている場合
- 1 物理的に書き込みが禁止されているディスク、または書き込み禁止ドライブ内のディスク上にファイルが存在する場合
- 1 ファイルがディレクトリの中のネットワーク上にあり、システム管理者が読み取り権だけを許可している場合

ローカルバス

ローカルバス拡張機能を持つシステムは、特定の周辺機器(ビデオアダプタ回路など)が従来の拡張バスを持つシステムよりも高速に動作するよう設計されています。ローカルバスには、システムのマイクロプロセッサと同じ幅のデータバスおよび同じ速度で周辺機器を動作させるものもあります。

[目次へ戻る](#)

[目次へ戻る](#)

Dell™ PowerEdge™ 1750 システム ユーザーズガイド

- [メモ、注意、警告](#)
- [略語一覧](#)

メモ、注意、警告

 **メモ:** 操作上、知っておくと便利な情報が記載されています。

 **注意:** ハードウェアの破損またはデータの損失の可能性があることを示します。また、その問題を回避するための方法も示されています。

 **警告:** 物的損害、けがまたは死亡の原因となる可能性があることを示します。

略語一覧

このマニュアルで使用されている略語の正式名については、「[用語集](#)」を参照してください。

このマニュアルの内容は予告なしに変更されることがあります。
©2002 すべての著作権は Dell Computer Corporation にあります。

Dell Computer Corporation からの書面による許可なしには、いかなる方法においてもこのマニュアルの複写、転載を禁じます。

このマニュアルに使用されている商標: Dell, DELL のロゴ、PowerEdge、および Dell OpenManage は Dell Computer Corporation の商標です。Xeon および Intel386 は Intel Corporation の商標です。Intel および Pentium は Intel Corporation の登録商標です。Microsoft、Windows、Windows NT、および MS-DOS は Microsoft Corporation の登録商標です。Novell および NetWare は Novell, Inc. の登録商標です。

このマニュアルでは、上記記載以外の商標や会社名が使用されている場合があります。これらの商標や会社名は、一切 Dell Computer Corporation に所属するものではありません。

[目次へ戻る](#)